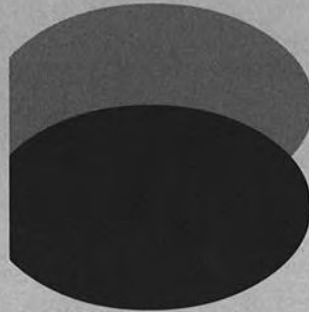


# 20000831

## 絵本学会 NEWS No.10

発行：絵本学会  
発行日：2000年8月31日  
編集：絵本学会事務局・広報委員会  
事務局：〒187-8505 東京都小平市小川町1-736  
武蔵野美術大学芸術文化学科今井研究室内  
TEL：042-342-6091 FAX：042-342-5173  
<http://vcd.musabi.ac.jp/ehongaku/homepage.html>



第3回絵本学会大会報告  
伝言板  
インフォメーション 絵本関係展覧会・イベント  
事務局からのお知らせ

### 絵本学会

## 2000年度 第3回絵本学会大会 「絵本のミレニアム」 ～絵本の表現の可能性はどのように発達していくか～

### 会長は、何をしたら、いいのですか

#### 三代目会長 三宅興子

第3回絵本学会大会の総会で会長に選出していただきました。ちょうど、太田大八前会長の基調講演「絵本学の未来」の直後で、その内容が、頭のなかでぐるぐる踊りながらまわっているときでした。「絵本学の構築をみんなで考えていきましょう」と、呼びかけることで講演を閉じられたのです。絵本がそこにあったから、おもしろくて、ついつい絵本について書いたり、話をしたり、文庫をはじめたり・・・と、絵本とかかわってきていたのですが、まっすぐに「絵本学」といわれてみると、自分が何をやっていたのかと、頭のなかのセンサーが動き出し、止められなくなっていました。

「絵本」をはじめて研究対象として意識したのは、おかしなことにアメリカの大学でテキストとしてよく使われていたアーバスノットの「子どもと本」の「絵本の歴史」という項目でした。そこには、おもいがけず、日本の絵巻物「鳥獣戯画」が世界最古の絵本として紹介されていたのです。1945年に書かれたものですが、もし、現在、「世界絵本史」を書くとなると、前史として、絵巻物や奈良絵本が華々しく取り上げられることになるでしょう。絵と文の組み合わせということでは、パピルスに描かれた「死者の書」などの先輩(?)もいますが、日本において長い歴史があることは、誰もが認めることかと思えます。「絵本学会」が「日本絵本学会」でない理由でもありましょう。イギリスの切手を見ると国名が明記されていません。それは、郵便制度がイギリスからはじまっているからで、日本のものは、「日本郵便」とかかれています。ちょっと、妙なところへ筆が飛躍してしまいましたが、絵本を「学会」を創って考えようというのは、恐らく、こうした下地があってこそ成立したのだと思いた

ります。

絵本の研究の歴史ですが、個人史を振り返ると、イギリスの絵本成立史を修士論文にしたのは1974年のことでした。自分では、それまでイギリスで顧みられることのなかった楽しみの対象である絵本を研究テーマとするのが、新しい学問のありかただと自負するところはあったのですが、全くの手探り状態でしたから、画家を中心とした歴史のようなものを構築するのがやっとのことでした。73年に絵本の専門月刊誌「月刊絵本」と「絵本の世界」が創刊され、絵本研究が市民権(!)を得たとうれしく思ったのですが、両誌は、すぐ、廃刊になってしまい、市民権は錯覚となりました。「絵本研究の研究・序説」という論文めいたものを書いたのは、1977年のことでした。そこでは、あつかましくも、「絵本研究の主な誤謬は、一見、科学的にみえながら科学的でないもの、絵本=物語絵本と狭くとらえてしまっているもの、絵本とは何かの考察を抜きにして教科書として集団教育で絵本を使い実践記録としているもの、風俗的ファッション的にだけ絵本をおさえているもの、などである。」と記しています。「序説」の筈でしたが、その後が続かず、いまに至っているのは恥ずかしいかぎりです。20年以上たった現在の研究状況はどうなのでしょう。渦中にはいってしまい、見えにくくなっています。それとも、自分の現状をみたくないという悪い状態にあるのかもしれない。

絵本学会は、幸い、さまざまな、絵本意識をもった者が集ってきています。太田前会長の呼びかけが、ひとり、ひとりの問題として、響いてきます。世界で一つのこの「絵本学会」が、楽しく研究を交流できる場として機能できますよう、歴史を創っていきましょうか。新会長が何をしたらよいのか、いろいろの示唆、ご意見をおきかせくださいますように。

## 絵本学会 2000 年度総会報告

絵本学会 2000 年度総会は、2000 年 6 月 10 日佐賀県伊万里市民図書館で開催されました。役員人事、1999 年度活動報告ならびに 2000 年度活動計画が報告された後、以下の総会次第にしたがって審議が行われました。

総会の出席者数：32 名、委任状提出者数：185 名

### 絵本学会第 3 回定期総会次第

#### 1. 開会の辞

#### 2. 役員人事について 絵本学会役員の承認

選挙によって選出された運営委員、次期運営委員会で選出された理事、監事および次期理事会で選出された会長、事務局長候補が承認された。新役員は以下の通り。

#### 新役員

- ・理事・会長 三宅興子（梅花女子大学）
- ・理事・事務局長 今井良朗（武蔵野美術大学）
- ・理事 太田大八（作家）
- ・理事 亀田邦子（国際子ども図書館）
- ・理事 島 多代（国際児童図書評議会）
- ・理事 中川素子（文教大学）
- ・理事 松本 猛（ちひろ美術館）
- ・監事 増成隆士（筑波大学）
- ・監事 千田篤（公認会計士）
- ・運営委員 石井光恵（日本女子大学）  
今井良朗（武蔵野美術大学）  
太田大八（作家）  
香曾我部秀幸（神戸親和女子大学）  
佐々木宏子（鳴門教育大学）  
澤田精一（福音館書店）  
藤本朝巳（フェリス女学院大学）  
松岡希代子（板橋区立美術館）  
松本 猛（ちひろ美術館）  
三宅興子（梅花女子大学）

#### 3. 1998 年度活動報告

##### ●第 2 回絵本学会大会

6 月 19 日、6 月 20 日、富山県大島町絵本館

テーマ：“もっと自由に、もっと豊かに、こどもとおとなブルーノ・ムナーリへのオマージュ”

##### ●人事

4 月 17 日、吉田新一会長が日本女子大学退任を機に会長職を辞任、6 月の大会まで太田大八氏が会長代行。

6 月 19 日、総会の承認を経て太田大八氏が会長に就任。

6 月 19 日、吉田新一氏の理事辞任にともない、三宅興子氏が理事に就任。

##### ●役員選挙

運営委員選出規則、監事選出規則に従い次期運営委員、監事候補者選出選挙が 2 月に行われ、選挙結果は、選挙管理委員会から平成 12 年 3 月 7 日理事会宛に書面にて報告された。

##### ●理事会・運営委員会

4 月 17 日 理事会および運営委員会

5 月 15 日 運営委員会

6 月 19 日 運営委員会

7 月 24 日 運営委員会

10 月 2 日 理事会および運営委員会

10 月 23 日 運営委員会

11 月 27 日 運営委員会

12 月 18 日 運営委員会

1 月 8 日 運営委員会

3 月 11 日 理事会および運営委員会

##### ●広報

広報紙『絵本学会ニュース』の発行 4 月、8 月、12 月

##### ●企画

「絵本フォーラム in 関西 part 1」の開催 5 月

「絵本フォーラム '99 東京大会」の開催 7 月

##### ●研究

「'99 ポローニャ国際絵本原画展」ギャラリートーク 7 月

通信衛星を利用した絵本に関する合同授業 & 研究会 10 月

第 1 回絵本学会例会の開催 2000 年 3 月

##### ●出版

絵本学会研究紀要『絵本学』第 2 号の刊行

機関誌発行の準備 継続検討課題

4. 1999 年度会計・会計監査報告

事務局（今井）より 1999 年度決算報告について説明。

監事（笹本）より監査結果について報告。原案どおり承認。

5. 2000 年度活動計画

##### ●第 3 回絵本学会大会

6 月 10 日、6 月 11 日、佐賀県伊万里市民図書館

テーマ：“絵本のミレニアム”ー絵本の表現の可能性はどのように発達していくかー

##### ●広報

広報紙『絵本学会ニュース』の発行 4 月、8 月、12 月

##### ●企画

「絵本フォーラム 2000」の開催

「絵本制作セミナー」の開催

##### ●研究

絵本学会例会の開催

##### ●出版

絵本学会研究紀要『絵本学』第 3 号の刊行

機関誌の発行

##### ●分科会活動

地域活動、分科会活動の推進

「2000 絵本フォーラム in やまがた」の開催

##### ●対外活動

2000 年子ども読書年ドキドキワクワクこどもの本ワールド（会場：ゲートシティ大崎）

へ「絵本フォーラム 2000」として参加

日本アニメーション学会、漫画学会（設立準備中）との合同シンポジウムの開催

6. 2000 年度予算案

事務局（今井）より 2000 年度予算について説明。原案どおり承認。

#### 7. 閉会の辞

## 1999年度 決算書

[収入]	項目	予算額	決算額
	会費収入	2,848,000	3,196,000
	法人等会費	260,000	280,000
	個人会費	2,588,000	2,916,000
	利息収入	20,000	470
	貯金利息	20,000	470
	参加費収入	300,000	327,500
	大会参加費	200,000	252,000
	フォーラム参加費	100,000	75,500
	その他収入	50,000	508,860
	前年度繰越金	1,753,928	1,753,928
	合計	4,971,928	5,786,758

[支出]	項目	予算額	決算額
	運営費支出	350,000	402,000
	総会・大会費	200,000	252,000
	大会運営補助費	150,000	150,000
	活動費支出	300,000	12,080
	専門委員会活動費	300,000	12,080
	旅費・交通費	550,000	575,053
	謝金支出	300,000	30,000
	講師謝礼	200,000	30,000
	論文集編集・制作費	100,000	0
	印刷費支出	750,000	1,169,910
	絵本学会ニュース	300,000	354,900
	研究紀要	250,000	281,400
	その他	200,000	533,610
	消耗品費支出	80,000	42,645
	通信費支出	540,000	713,290
	絵本学会ニュース発送費	260,000	268,450
	研究論文集発送費	120,000	119,800
	事務連絡費	160,000	325,040
	報酬支出	450,000	420,000
	事務局報酬	450,000	420,000
	雑費	50,000	44,874
	予備費	100,000	6,906
	機関誌刊行積立金	1,200,000	1,200,000
	次年度繰越金	301,928	1,170,000
	合計	4,971,928	5,786,758

資産残高明細 2000年3月31日現在

現金	21,394円
三和銀行国分寺支店	1,189,946円
たかの台駅前郵便局	2,158,660円
内機関誌刊行積立金	2,200,000円

## 2000年度 予算書

[収入]	項目	予算額
	会費収入	3,196,000
	法人等会費	280,000
	個人会費	2,916,000
	利息収入	5,000
	貯金利息	5,000
	参加費収入	280,000
	大会参加費	200,000
	フォーラム等参加費	80,000
	積立金組み入れ	2,200,000
	その他収入(入会金等)	100,000
	前年度繰越金	1,170,000
	合計	6,951,000

[支出]	項目	予算額
	運営費支出	350,000
	総会・大会費	200,000
	大会運営補助費	150,000
	活動費支出	200,000
	専門委員会活動費	200,000
	旅費・交通費	700,000
	謝金支出	200,000
	講師謝礼	100,000
	論文集編集・制作費	100,000
	機関誌刊行費	2,800,000
	印刷費	1,800,000
	編集・制作費	800,000
	発送費	200,000
	印刷費支出	1,000,000
	絵本学会ニュース	360,000
	研究紀要	280,000
	その他	360,000
	消耗品費支出	80,000
	通信費支出	700,000
	絵本学会ニュース発送費	270,000
	研究論文集発送費	120,000
	事務連絡費	310,000
	報酬支出	450,000
	事務局報酬	450,000
	会議費	30,000
	雑費	100,000
	予備費	100,000
	機関誌刊行積立金	200,000
	次年度繰越金	9,100
	合計	6,951,000

犬塚 まゆみ

羽田から福岡まで空路1時間半、福岡からバスで2時間余り、伊万里市は九州の西の果てにあります。「こんなに遠くに足を運んでもらえるかしら」。胸中不安がいっぱいでしたが、「こんな所だからこそ」という思いに背中を押されて、恐る恐る「伊万里で大会を」と手を挙げました。絵本学会大会を無事終了した今、何よりも一番に、遠路お出かけくださった会員の皆様に心からお礼申し上げます。

基調講演で太田大八さんは「絵本は人生に作用する万能薬であり、子供のもので片づけてしまうのは誤りである。また、言語の違いを超えて、互いを理解しあえるコミュニケーションアートである」と話されました。

ところで、図書館も子どもから高齢者まで利用できる施設であり、〔今、ここ、自分〕を確かめ、美しい生き方を見つける所があります。そしてめざすものは平和です。

期せずして、絵本学会と図書館のめざすものは似通ったものであり、その大会を図書館でやったことの意味の大きさを、改めて感じております。

後日談になりますが、市の幹部が風邪で病院に行った時の病院長の話です。「絵本学会大会、とても素晴らしかったそうですね。女房は何週間も前から絵本学会、絵本学会と寝言のように言っていました。当日は私が子守役、まるで学生時代に戻ったように颯爽と出かけて行きましたよ。知的刺激の少ない町で、こんな学会をやる意味は大きいですね。知的活力が高まってこそ、いい町になります。」

あれから1ヶ月、図書館では絵本の貸し出しが増えていきます。同じ作家の絵本をバックに沢山詰めて返しに来る若い人もいます。絵本の研究グループも発足しました。いま、伊万里でも絵本学という小さな芽が出たのかなという気配がしています。絵本学会大会が一過性のイベントに終わらないよう、図書館ではこれから一層、力を注いでいくつもりです。絵本学会の皆様のご指導をよろしくお願いたします。(伊万里市民図書館 館長)

【パネルディスカッション】  
絵本の未来—表現の可能性

司会 松本 猛 (ちひろ美術館)

パネラー 荒井良二 (絵本作家)  
おのりえん (絵本作家)  
田島征三 (絵本作家)

松本 ちひろ美術館の松本です。

最初に、パネラーのみなさんは何がきっかけで絵本に関わるようになったのか、そして何でこんなに儲からない世界なのに、絵本にこだわっていらっしゃるのか、それはおそらく絵本の表現に魅力を感じていらっしゃるからだと思うのですが、絵本の表現とはいったい何なのか、その表現の将来は果たしてあるのかという話をしていきたいと思っています。会場のみなさんからぜひいろんな意見を出していただきたいと思います。それでは、田島さんの方から口火をきっていただきます。

田島 僕は絵本を最初にかいたのは、1962年なんです。『しばてん』という本を自費出版しました。これは偕成社が10年後に出版してくれたんで、1971年の発行ですが、最初に作ったのは1962年です。僕ジョン・レノンと同じ年で1940年生まれなんです。すごく計算しやすいんだけど、62年というのは22歳の時です。さっきおのりえんさんに、「田島さん絵がじょうずだからいろいろ描けていいわね」といわれたけど、僕ね、下手なんです。で、描きたいものが全然描けないわけ。『しばてん』は、売り込みように作ったわけです。なぜ絵本をやりたいかということと絵本というのは、表紙から裏表紙まで全部自分の絵で描いていいという、絵描きにとってすごくうれしいものですよ。だからそれで絵本を描き始めたんだけど、先に物語を作ってしまうと苦手な絵が出てきたらどうしようって問題があって、売り込みにならないわけですよ。あえて、苦手な場面をかかなきゃいけなくなるんで、だから僕が今まで自分が描いた絵を畳の上に並べてね、並べたり並び替えたりして、それで話作っちゃったわけ。それで出来たのが『しばてん』なんです。それも大学の2年生の時から3年生にかけて描いた絵だからね。その絵本を作ろうと思って描いた絵じゃないわけですよ。でもそういうのをアトランダムに並び替えて作ったのが『しばてん』です。かなりいいかげんな話してるみたいだけど、結構「絵本とは何か」みたいな話をしてる気もしてるんだけどね。(会場爆笑) 売り込みように作ったうちの1冊が、和田誠さんにわたって、和田誠さんから、童話作家の今江祥智さんの手にわたって、今江さんが『しばてん』を見てくれて、すごく感動したらしいんだよね。そのとき今江さんは国立に住んでて、電車の中で泣いちゃったんだって。「僕は涙がこぼれました」とかなんか言ってくれてね、それがすごくうれしかったの。そのあと『しばてん』を持ち歩いてくれて、福音館書店とか理論社に売り込んでくれたので、今僕こうやって生きていられるんだけど、だから今江さんは命の恩人なんです。特に恩人なのは、仕事世話してもらったというだけではなくて、僕がいいかげんに畳に絵を広げて作った話を見て、友達でも家族でも

ない人が涙を流したということが、僕に絵本に対する希望というか、俺はこの仕事でやっていけるんじゃないか、みたいな、自信をつけてくれたということではすごく感謝しています。だけどその『しばてん』を福音館の松居直さんに見せたら、「田島さん、これは子供にはわかりませんよ」って言われて、「うちでは出せません」って言われたんで、だめかなと思ったら『ふるやのもり』っていう本を出してくれたんですね。それは1965年の1月号ですから、今から35年前ですよ。それが出版の最初になったわけですね、ただそれはね、今江さんはまた誉めてくれたんですけど、ある人が、ある雑誌に「この絵本は、子供には向かない絵本だ。絵描きがアトリエでキャンパスに向かって何を描こうとそれは勝手ですが、美しい絵本の花園を芸術家のエゴという泥靴で踏みしめることだけはやめてくれ。」っていう批評を書いてくれて、僕はすごいがっかりしたんですけど、最近ね、これはすごくいい批評だと思ってね、だから絵本の未来に関して言えば、これからも、「子供の美しい絵本の花園を泥靴で踏みしめるような絵本」をかきつづけなければいけないと、決意しているのです。

**松本** ありがとうございます。続いては、おのりえんさんです。

**おの** こんにちは。私が子供の絵本を始めたのは比較的遅く、28です。それまでは死んでも絵本の世界には近づくまいと思っていました。親が絵本描きさだったので、絵本の周辺の人を見てたけど、子供心にも、みんな変だと思って…あちら側に近づかず、自分はまともに生きようと思って、受験戦争でもなんでも真面目にやってきました。でも28になる前に、非常に落ち込んでノイローゼになりそうになって…その頃ちょうど、堀内誠一さんや松居直さんの話を聞きに行く機会があったんです。その後堀内さんの作品や、長さんの『なんじゃもんじゃはかせ』や田島さんの『しばてん』を見直して、変というより自由だなと思ったんです。心を安定させようと、守りの方に目を向けてたけど、もっと逆の、自由の方がいいんじゃないかって。それで、自分の枠をやぶるつもりで、絵や文をたくさん書いて松居さんに持っていったら、斉藤惇夫さんに会うようにすすめられました。斉藤さんは「絵はだめです。文にしなさい。」って。それで今に至っています。絵は好きだけど、自分で描ける範囲だと、こままりなものになるので、今のところ、自由な絵を描ける人に文章を投げかけた方が、太田さんのおっしやる絵本に光をあてるイラストレートという意味では、誠実かなと思います。

**松本** おのさんのお母さんっていうのは、おのかおるさんです。だから福音館を庭のように過ごしてたんでしょうか。続いて、荒井良二さん。田島さんがすごく若々しくて激しくぶつかっていくのに対して、荒井さんのほうは、最初っからふわりと生きていて、なんかさわやかにゆらゆらと生きてるような感じもしなくはないんですが。

**荒井** そよ風のように生きてます。荒井良二です。「儲かれないのに、食えないのに、何で絵本？」でしたっけ？。えー、これしかなかったんです、残ってるものが。絵本はずっと好きで、見るほうでしたね。子供の頃から見てるわけじゃなくて、大人になって、19歳、大学生になってからですけど。そこで好きになったんです。傍らに子供の本という認識としてありましたが、好きでしたね。でもまさか絵本作家になろうなんて全然思っていません

でしたね。僕、1975年がちょうど19歳位の時なんですよ。その時日本の絵本の状況って言うと、「月刊絵本」とか、そういう雑誌があって、それを見るとなんか、すごく難しいんだな一と思って、これは俺の出番じゃない、入る隙間がない、っていうふうに当時は思ったんですよ。でも絵本が好きだから、意識はどんどん日本から遠のいていって、外国の絵本へ行ったわけです。外国語ですから、すぐ言葉は入ってきませんから、理屈抜きで、ビジュアルが目飛び込んでくるっていう。それだったら俺も子供の壁を越えることができるんじゃないだろうか、と。だから、外国の絵本ていっぱい見ましたね。それで、それを見て絵本を1冊作ろう、と思ったんですよ。最初の絵本は遅いですよ僕、34から、ぐらいですから。この絵本なんですけど、本当にいろんな方からいろいろ言われました。大人の絵本だとか、若い女性向けの絵本だとか、子供を無視してるとか。でも、19とか20歳の時、70年代中ごろだったら絶対こんな本で出してくれませんでしたよ、たぶん。でもよくこんなに早く出たなと思いました。「なぜ絵本」、「これしかない」っていう。

**松本** なんか積極的な話があんまりなくて、やむなくこうなってる人たちが多いようですが、おいおいそのどういうところで自分がこだわっているのかっていう話をしてもらおうと思います。

日本の創作の絵本が出てきてから40年ぐらいなんですけど、最初はやはりアメリカとかヨーロッパの影響がありましたから、ストーリーがあって、そしてそれに絵を付けていくという絵本で、岩波でも福音館でもそういうところから出発していったわけです。でもこの40年間の間には、幾つかのエポックになるような作品はあったと思うんです。表現を大きくジャンプさせていくような、こんなことを絵本でしていいのかというような。『しばてん』なんか、僕らが学生時代の頃すごく読まれたんですけど、これは学生が持っていたんですね。結構その過激な思想、あるいはどういうふう生きていったらいいのかとかいうことを考えた時に、子供じゃなくて、学生がこれについて話したり、あるいはこれを持っているとかっこよかったりするような時代だった。で、これは絵本というものの読者層を広げたんじゃないかと思えます。それから、これは、安野光雅さんの『ふしぎなえ』です。言葉が全然ないですよ。これはある意味では画集でしょ。不思議な絵が何枚か並んでいるだけの画集。画集が絵本になっちゃった。じゃあ画集と絵本の違いはいったいどこにあるんだろうか。そういう問いかけもこの本の中にはあったと思います。それから、赤羽末吉さんは、日本の絵巻物を研究して、それを絵本の世界に持ち込んできました。これはやはり、それ以前の絵本の世界とはだいぶ違ったものだったと思います。それから長谷川集平さんの『はせがわくんきらいや』。これは、社会への告発の本でした。絵本にはこういうこともできるんだぞ、ということを示してくれたような気がします。一般的に、絵本は子供の本という意識がまだ非常に強いわけですが、絵本というものの世界は、そこだけに留まらない部分があるんじゃないか、ということをいろいろと考えています。それから、これは最近の本で、『まっこのうた』っていう日本絵本賞をとった絵本なんですけど、写真の絵本です。クジラの写真集かな、と思うとそうじゃなくて、クジラを追いかけていくイメージを自分の体験を重ね合わせて、ストーリーと写真で作っているわけです。これは『白鯨』や、『老人と海』とかいろんな本を背景に感じさせてくれます。写真絵本は今までにいろんな人が挑戦してきましたが、今確実に地歩を築いてきた。そんなふうに、幾つ

かその時代のエポックを通して絵本の世界というのは拡大してきた、表現の世界は拡大してきた、と思うのです。

今、田島さんは新しい表現を幾つか挑戦されてますよね。半立体のものを使いながら絵本を作ったりされているわけなんですけど、絵本という媒体の中で、自分の中で、どんな風に表現を次々と求めていったのかお話ししていただけますでしょうか。

**田島** 荒井さんが、1975年ぐらいにね、19歳で絵本を見始めたなんていうのを聞いて、実に感慨深いものがありますけど、僕は35歳で『ふきまんぶく』っていう本を出して、今までの『ちからたろう』だとか『ふるやのもり』とは違うかき方をしようと。目の出村に引っ越して、6年目ぐらいですよ。この本は発行されてすぐには評価されなかったんですけど、『ミセス』の編集してる人が、新しい本で、『すてきなおかあさん』っていうのをつくることになって、ヨーロッパの絵本をはさみこみだといってことでヨーロッパに行ってきたんだって。帰ってきたら自分の机の上に『ふきまんぶく』があったんだって。それで、「うわぁ」とか言って、僕のところにきてくれた。結局は『やぎのしずか』をその本に載せることになって、そしてそれが評判よかったんで出版されたんです。それがさっきの、荒井さんが19歳の1975年、僕が35歳の時なんですよ。でね、『ふるやのもり』が出た時って、「これは子供の本の花園を、芸術家のエゴで踏みにじめるような絵本だ」と言われてこれはやっぱり売れなかったね。返本の山だったの。その後『しばてん』出したでしょ。『しばてん』は若者たちにはうけてたんですけども、子供の本としては認められなかったですよ。そんなんで、全然だめだったのが、なんと『やぎのしずか』を出したらね、初版1万冊が、1週間以内に売り切れちゃったんだよね。でもすぐね、これを増刷したんですよ。で、今僕が増刷って、1500部ぐらいなの。それがね、いきなり1万部出して、次が2万部なんですよ。これはね、ものすごく腹が立ったの。僕の作品がそんなに簡単に売れてたまるものか、みたいなね、そういう誇りみたいなものを持ってたわけよ。僕が、だいたいこの前僕展覧会やってたら、若い男性が近づいてきてね、「この絵はあなたの絵ですか？」って言うから、「そうですよ」つつたら、「何でこんな汚らしい絵をかくんですか？私はルノールみたいな美しい絵が好きです。」っていうから、「はかやろう！」ってすぐ言ったの。だってね、ルノールも、最初あの、ほわわ、とした裸婦を発表した時に、女の腐乱死体だと言われたんだよ。要するに、最初はやっぱりすごく汚らしい、とか言われるんだよね。古い美意識をぶちやぶるものを世に出せば、それはすごく反感を買うわけですよ。ピカソの『アビニヨンの娘たち』もそうですよね。だから、ピカソとルノールと同列に自分を考えてるわけなんだけども。けどまあ、そういうつもりで、『ふるやのもり』も『しばてん』もやってんのに、『ふきまんぶく』もやってんのに、『やぎのしずか』で、いきなりこう売れちゃう、っていうのはもう完全に敗北なわけよ、僕としては。ものすごい腹が立った。だから絶版にしたんですよ、実は。最初は文化出版局で出たんですよ。それでこんな売れるものが出た、という怒りによってね、僕は「これは絶版にする」とか言って、めちゃくちゃですよ、やってることが。本当は後悔してますけど、今では。その後5、6年経って、偕成社から出ましたけども、ほとんど売れてません。やっぱりあれ勢いだね。とにかく僕はもう全く新しい仕事がしたくて、長新太さんが昔ね、「田島くん、画風っていうのはだんだん自然に変わっていくんですよ。」って、まあ長新太

さんほどの才能のある人はそうなんです。けど僕なんか無理に変えないと変わらないわけ。もう、今までの『ふきまんぶく』も、『ちからたろう』も全部やめて、全く新しい絵を描こうと思って、描き始めたんだけど、新しいのってできないんだよね、なかなか。全部今までの壊すっていうのは、ものすごい難しいんです。で、5年間かかっちゃったわけよ。1981年になってから、出来上がったのが、なんとこの本なんですよ、「ほらいしころがおっこちたよ」っていう、めちゃくちゃ長い話なんですけども、タイトルも長いし。これは今までと違うつもりで作ったの。これできたとたんね、僕はすごい自由になったんですよ。ここまでいっちゃえば何やってもいいんだ、みたいなね。半分やけくそっていうか、これでもう自由になっちゃった。だから例えば、その後こんなものを出したんだけど、もっとどンドン、どンドン抽象的なものなんか出したの。野菜の話をね、『はたけのともだち』っていうのにして出したんだけど、それ見て僕の双子の兄弟が言うには、「せいちゃんね、こんなのって、だれでも描ける。」って言うんだよね。そりゃ描けるよね、こういうの。抽象的だからね。だから、ちょっと心配になったんだよね。今までの『ちからたろう』とか、『ふきまんぶく』は、確かに下手だけでも、ほかの人はあんまり描かない。こんなねちっこい、こんな汚らしい絵は。でも、こういうカンタンな絵だったら誰でも描くんだよね。だけでも、いいんだ、っていうことに気が付いたわけ。なぜかという、この絵は僕が描いてんだもんね。だから、僕の絵なんだからいいんだ！みたいなね、そういう気持ちになったわけよ。要するに、良い絵っていうのはね、絵の具で描く絵じゃないんですよ。人生のお汁でかくんだ。そしたらもう後なんでもいいみたいな感じで、今何やってるかという、木の実で絵本を作ってるんです。これ福音館書店から来年出ますけど、実はね、去年の秋に仕上がったんだけど、木の実がおっこってないとね、できないんですよ。で、ちょっと直したくなっちゃったけど、今年の秋、もう一回落ちてくるまで直せないものだから、もう一筆直すために。これも画期的といえば画期的なんだけど、これはもう誰でもできる絵本なんですよ。人生のお汁もくそも、木の実ですからね。木の実を集めてきて、並べればできるわけですから、そんな誰でも並べられるもんね。けども、並べたの田島征三なんだ、みたいな感じの。ほとんど自分でも何言ってるかわかんなくなったから止めますけど。

**松本** 次々と意識的に自分で変えるというふうにならっしゃいましたが、例えば、語りたいテーマと、その表現のスタイルっていうのはやっぱり結びつくんじゃないんですか？

**田島** 太田大八さんは、テキストによって画風をガラッと変えてますよね、あれは、正しい絵本の作り方だと思うんです。僕も、イメージが出てきて、このイメージにはこういう画風で行こうとかね、このイメージではもう、ガラッと変えようとか、そういう自分で作った絵本のシナリオによって画風を変えることを考えてるけども、あくまでも「絵本と画風」、っていうふうに変えてきたのが、やっぱりちょっと不自由だったんじゃないか。要するに、自分をばらばらにして、自分には画風はないんだ、何でもいいんだ、人生のお汁でかいてるんだから。って思った時に、イメージは湧きやすいよね。自分にある画風っていう、例えば『ちからたろう』の画風を持って僕が考える絵本っていうのは、もう決まって、決まってるっていうか、非常に狭い世界になるわけですよ。けども、何でもいいんだって

思った時に、すごく広いというか、今ここで考えられるイメージ以外のイメージも使うことができるっていう、そういう可能性、気持ちの自由さっていうのを手に入れることができたと思いますよね。

**松本** 今の田島さんの意見に対して、荒井さんはどんな風に感じますか。

**荒井** 僕は、レミイ・シャーリップっていう人が好きで、あの人も全部なんか絵本のテキストによって、絵がガラリと違う。田島さんが今おっしゃいましたけど、僕もそういうのって、絵本に忠実な作り方なんじゃないかなと思うんです。僕の場合もそうありたいなって考えてますけどね。テキストが絵を変えさせるってこともありうるんですよ。だからこっちはこうやりたいんだけど、でも、テキスト見るとこうだよって、っていう、テキストがしゃべってるような感覚があって、それに従う時がありますね。だからもしかすると、これ俺じゃないほうがいいんじゃないかなんて、自分で思ったりするときがあるの。これももしかしたら誰か別の人がいいんじゃないかな、と思いつつ。でも、やりますけど。楽しみながらね。

**松本** おのさんも、絵描きさんから思ってた画風じゃない絵が出てきちゃうことってあるわけでしょ。どの絵描きと組むかは、編集者が考えるんですか？それとも自分で考えてる？

**おの** 編集者の人と一緒に考えます。

**松本** では、作家の側からどんな風に絵本を作っているのか、どんな風に絵描きと自分とのつながりを考えているのか、話していただけますか。

**おの** 私は、人と面と向かってのコミュニケーションは苦手。でも、準備したテキストを画家の人に投げかける絵本というコミュニケーションは好き。たまに意見を言うこともあるけど、主に相手任せ。テキストに力があれば、「思わずのって描いてしまいましたよ。」なんて言われるかもと、願いつつ、仕掛けていく感じです。

**松本** 絵本のテキストを作る時は、いわゆる児童文学を書く時とはかなり違うでしょ。例えば、意識的に絵と文章で二重の表現をする場合もあるかもしれないけども、重ねないほうがいいと思ったりとか、その辺の調整はどういう風にするんですか？

**おの** 絵本と児童文学とあまり違うとは思いません。太田さんがおっしゃるように、本を見るときは、誰でも五感を使ってると思うんです。絵と文だけでなく、音楽や手触りも感じて。作る時も五感中三感くらい……音楽やにおいを意識して書いてできた文は伴奏。絵の方にメロディを頼む。でも、それが一冊になったら、絵本自体が伴奏で、メロディは受け取る人のもの。たとえば子どもの頃『ふるやのもり』を読んだとき、全部、正面きって向ってくる本という印象があったんですが、今見ると違うでしょ？だから絵本も児童文学も、メロディを乗せやすい伴奏に調整する点で、同じ。

**松本** 絵描きさんには表現をどうするかを聞きやすいんですけど、文章を書く方、特に絵本のテキストを書く方っていうのは、なぜ絵本

の世界に入るのか、どこが魅力で絵本テキストを書くのか、聞きたいのですが。

**おの** 多分、自分自身、小さい時と、大人になってからの2回、絵本と出会ったと思ったからだと思います。子どもの頃、『しばてん』見て、こんなお尻、エッチーっとか言ってたものが、大人になってずんと心に動きかけてきたり。『ふきまんぶく』が何となく怖かった、その何となくの意味が分かったのも。大人になってからだし。絵本って息が長いメディア。人の人生を左右するサブリミナル見たいなところが面白い……。

**松本** 今、お子さんには、どんな絵本を読みなさいって言ってるんですか？あるいはそっと置いてとくというのはあるんですか？

**おの** いえ。子どもの頃、自分も読みなさいって言われるものは読みたくなかったから。どうしても読ませたかったら、「私の大事な本」というと、読んでくれるかな。それに基本的に読み聞かせは、我が家では、旦那の担当です。

**松本** わかりました。荒井さんは、自分自身、これから変わっていくかもしれないとかさっきおっしゃいましたが、どんな風な絵本のイメージがあるのか、どこに向かおうとしているのか、絵本でこんなことができるんじゃないかと思ってるのか、もしあればお願いします。僕は荒井さんの絵本からリズム、音楽性を感じたんですけど。

**荒井** いや、そんなに、難しく考えずにぼんやり考えてますけど。自分のことも、絵本のことも。僕は、絵本にこだわってないっていうと変ですけど、そういうところがあります。自分が自分であるってことの、表現をすること、単なるアーティスト的な思い入れじゃなくて、やっぱり俺が何か表現したこと、誰かが喜びとか、笑うとか、はかだな一とかそういう感想もつって。それを基本的に絵本に限らず作っていきたくんですけど。でもね、あんまり絵本絵本、で始終絵本にがんじがらめになって絵本を作ると、作る側はやっぱり体によくないし、見る側も体によくないと思うんですよ(笑)。だから、目指すは、肩こりに効く絵本とか、頭痛が少し癒されるとか、そういう絵本はとにかく目指したいですね。近い未来として。

**松本** 「絵本の未来」っていうのがもう1つのテーマなんですけど、作ってらっしゃる方たちは、絵本というものにこだわってなくても、やりたいものを作ったりするわけです。実際に今、子供もあるいは大人もそうかもしれないけれども、テレビゲームですとか、コンピュータを駆使した映像の世界が非常に普及してきています。それに対して今絵本が実際にはなかなか売れなかったりとか、新人が出にくい状況があったりするわけですけども、一体それでは、絵本というのは、これからの世の中を考えて、どういう独自性があるんだろうかと。なぜ絵本を作るのか、あるいは絵本というのは他の分野と比べて何が面白いのか。その辺のことをお話しただけませんか。

**田島** 僕は、絵本を作ろうと思ったのが38年前ですけども、絵本だけ、というふうには思ってたなくて、今でもいろんなことをやってはいるわけですけど、ただ、絵本を作り続けてるっていうのは、1

つのオブジェというかね。絵だったら、こういうふうには、壁に掛けられるものであったりするわけですけど。例えばこの空間そのものを使った現代美術作品があったりするよ。例えばあの、ポラティンスキーだったかな。古着をほら、床全体に置く、ユダヤ系のフランス人がいますよね。それはこのフロア全体がもう作品になってるわけで、床が作品になってるわけじゃなくて、床の上も含めて、空間が、作品ですよ。ポラティンスキーの場合はその古着を壁に引っ掛けたりしてますよね。ホロコーストなんか意識して。結局、鑑賞者はその古着の上を歩かざるをえないって。古着ってというのはそれ自身全く非人格的なものなんだけど、人がそれに、袖を通したことがあるものってのは、なぜか人格性を帯びていて踏めないですよ。今ここに僕がこの服を脱いで置いて、松本猛さんにこの上通って言うても、通るかもしれないけど、ちょっと通りにくいって。マリアさんの顔は、かつて、隠れキリシタンは踏めなかったけども、それと同じっていったら、ポルテージは違うんだけど、やっぱり、踏みにくい。それをポラティンスキーは、そういう一つの空間で表現しようとしてるわけですね。現代人の持っている隠れた恐怖みたいなものを表現している。それが、現代美術の1つの方法なんだけど、そこまで大げさじゃないにしても、実際に皆さんが見ることのできない隠れたページを、この絵本の中に1ページ1ページ見ていくわけですよ、そしてまたもういっぺんもとのページに戻ったりすることもできる。そういうことが、絵本の持っている魅力だと思います。

この本は僕が今まで描いてきた絵をカラーコピーして、デジタルカラーコピーだからもちろん、拡大も縮小もできるけども、例えば、このページの絵は色を逆転してるんですね。こういう絵はないんです。僕のかいた絵をカラーのネガタイプにしてるので、赤いところが青くなったりしてるわけですけどね。それを見ると、自分ですごくうれしいんですよ。こんな色、絶対使わない色が、デジタルの世界で、裏返って出てくるから。だけど僕はデジタルが好きでやってるわけじゃなくて、それをアナログで、はさみで、ちよきちよきちゃん切ったり、のりで、べたべた貼り付けたり、そこがまた、おもしろくなっていくんです。そういうことを含めて、絵本の持っている可能性の中に、1ページ1ページをそういういろんなテクニクを使って構築していくと同時に、1冊の中にとじこめられたこのページはこのページのあとにしかこないという、つなげてしまっているということ。それと、もう一つはやっぱり文学性ですかね。短い文章を入れることができる。言葉が短く入ることによって、もう一つ別の方向から読者を刺激してるわけですよ。そんなことが、絵本の可能性の一つではないかと思えますね。

**松本** すごい。論理的な、田島さんらしい発言で。

今、オブジェって田島さんおっしゃいましたけど、今の時代の中で、例えば、テレビだとか、ディスプレイだとかと、一番大きく対比できるのは、絵本はものとして存在してる、ということのような気がします。絵本はかじることもできれば、手で触ることができて、紙の質感とかも、実は編集者は一生懸命考えてます。発色も考えてるけども、いろんなことを考えてます。ハードカバーにするか、ソフトカバーにするのかも含めて。これは1つの、もの、だからだろうと思うんですよ。そういう意味で言うと、これは僕の、個人の意見になりますが、今の我々の中では、触覚という感覚がどんどん失われてきているような気がするんです。全部バーチャルな世界で、処

理ができてしまう。ところが人間てのはどうやって食べないと生きていけないわけだし、彫刻家の佐藤忠良さんに言わせると、とにかく人間が最初に実感するのは産道から出てくる時の状態で、その時はきつと、体中のこすれていく感じとかいうのを知りながら出てくるんじゃないか、とおっしゃるんですね。その時の、触る感覚みたいなものから、どんどん人間は遠ざかってってしまう、と。絵本というのはある意味でいうと、お母さんでも、お父さんでももちろん誰でもいいんですが、一緒になって触りながら、ものとして把握できる。そういうものじゃないかな、と。その意味でいうと、少し大袈裟ですが、絵本というものが、存在していることによって、人間が人間であり続ける。もちろん、絵本だけのことじゃないですけど。

それでは、質問コーナーに移りましょう。

**質問** 絵本学会の企画委員の香曾我部です。先程、田島さんの話の中で、売れた絵本について、自分の作品が分かってたまるか、ということ絶版にしたとおっしゃったんですが、作家にとって売れることってというのが一体どういう意味を持っているのか、そういう風に腹が立って、絶版にしてしまったってというのは、つまり3万とか5万の読者っていうものを切り捨てたんじゃないか、っていう風にも思ってしまうわけなんです。それはかなり作家の傲慢じゃないかと思うんですけども。本質的に作家は売れるものを目指してるのか、その売れるということをどういう風に考えてるのか。これは、三人の方々にすべて話をして頂きたいと思えます。

**田島** 絶版にしたのはね、売れた、というだけではないんですけど、まあいろいろあってね、絶版にしました。勿論それはもう、非難轟轟。電話も投書も、いっぱい来まして。「傲慢ではないか」と。それに対して反省してます。反省というか、あのとき儲けとけば良かったかな、とか。そうすれば今アトリエぐらい、ぼく六十になったんですけど、未だにアトリエを持ってないという絵描きなんですね。で、まあそれぐらい出来たんじゃないかと。まあひとつには、後悔があるけれども、やっぱりあの時に、「俺の絵なんかわからねえぞー」みたいに思ったその傲慢さがあるからこそ今こうやってる、みたいなところもあって。僕という存在が、これ荒井良二さんと、多分反対側にいるって。すごい傲慢で、ワガママで、だから風のように生きてないというか、岩石の様に生きてるという感じがしますよね。それと、これからは絶版にしません。むしろ、出版社の方が絶版にしようとしてるんですね。この本『ほらいしころがおこちたよ』なんか、この前絶版になりかけたんです。それで僕、絶版にしないでくれて、って逆に泣きついたら、じゃあ八百冊だけ増刷します、って言われたんです。さっきも言ったように、僕、千五百冊増刷なんて情けないことになってるんですけど、千部を切った増刷ってというのは初めてなんです。しかもこの八百冊、今度の増刷からは、値段を二千円にしちゃうとか言ってるんですよ。今千八百円だけでも。だから買いたい人は今のうち買っといて下さい。それはともかく、それと売れる売れないっていう話ですけども、これは資質だと思うんですね。この本は、木村祐一さんと、コラボレーションというか、彼が文章書いて、僕が絵を描いたんですよ。ユウちゃんていう人は、仕掛け絵本なんか、600万部なんですよ、売れたの。600万部ですよ。僕なんか全部合わせても60万部もなってないんじゃないかっていう。だから、600万部の人と、6万部くらい



しか売れない田島征三が合わさると、平均しても300万部くらいになるかな、とか思って。どういう話かって簡単に言うと、狼が子豚を食べようとして、逃げられちゃうんですね。で、ああおいしそうな子豚だったなって思ってるわけ。最初は逃した子豚のイメージが実物大だけど、歩いてると野ウサギなんかか、あんなおいしそうな子豚を食べる前にこんなウサギなんか食えるものか、って思って。鹿に会っても、鹿なんか食っちゃったらお腹いっぱいになっちゃって、ああおいしい子豚が…ってだんだん子豚のイメージが大きくなってわけよ。で、どんどんどんどん大きくなって、それでやっと、さっきの本物の子豚を見つけるわけ。で、つかまえた！って食べようとした時に、自分のイメージが大きくなってるので、あ、こいつじゃなかったな、みたいなかんじで、やめて丘を降りてって、最後のページでは、穴ぐらの中でお腹ペコペコにしちゃって、なんも食わずに泣き寝入りしている狼が描かれてるわけだけど。ただ木村祐一のラフスケッチではね、最後の場面でこの子豚がニコニコ笑いながら、今まで出てきた鹿だとか、ウサギなんかの所へ逃げて行ってるわけ。助かったもんだから、ニコニコしながら、弾みながら。そこで終わるんですね。要するに子供達は絵本の中に入り込んでるわけだから、子豚になりさってるわけですよ。それが最後に、こう、助かった…ってところで終わると、これは結構100万部くらいってたかもしれない。まだ、今2万部くらいってるから、僕としてはかなり売れてるんだけど、木村祐一としては、それ程売れてないわけですね。要するに、子豚が助かった、というめでたしめでたしの話にすれば、結構売れるんだろうな。けど僕はね、やっぱこうしちゃうんだよね。狼の、こう、せつなさみたいな所にいっちゃう。だから、そういう売れるか売れないかっていうのは、そういう所だと思います。僕は、この本が800冊でも増刷されたという事を、大勝利だと思ってる。何百万部も売れる本があって、それから何百冊しか売れない本がある、という。でも、それが文化だと思うんですね。文化を守るっていうことが、僕らの仕事のひとつだとしたら、こんなほとんど売れそうもない本を出しているという事も、モノを作る人間としてはすごい大事なことだと思います。

**松本** はい、売れることに関して、おのさん。

**おの** 売れたらいいなーと、思います。私、子ども四人みんな男で…最初、女の子欲しかったのでショックでした。でも男の子を産んで、学んだことがあります。旦那がマザコンだと、妻はいやでしょ？だからマザコンじゃなく育てるなら、つまり男の子を産んだ時点から、潔く「さよなら」言うのが人生のテーマです。本も同じで、売れる子もあれば、売れない子もいて、悪評聞いたら「くそー」と思うし、思いもかけないところで褒められると照れくさかったりもするけど、とにかく一生懸命やって、後は、別れた女、じゃないや、別れた息子として、あまりこだわらず。でも本当はね、売れたらいいなー。

**松本** では、荒井さん。

**荒井** 売れなきゃ困るなーと思いますね。僕だけの作品に限ってじゃないですけど、何で売れないんだろうと思いますけどね。ただその、広告っていうか、ここに絵本があるよっていう、その存在を知らし

める方法に意識が向きますね。ただ、自分の持っている、その美的水準にだけは気を使ってますけど。でも、売れなくていいとは全然思っていないですね。それはもちろん、お金の問題だけじゃなくて、何とかやっぱり存在を知らしめたいっていうのが大きいですかね。だから、その為には、売れるって事なのかも知れないと思いますけど。

**松本** さっき田島さんが、文化とは何かっていうのをおっしゃいましたけども、やっぱり本の中には、売れなくてもこれを出さなければならぬ、存在してなければいけないっていう本が、あるような気がするんですね。今の出版社は、経営上苦しいって事はよくわかるから、売れる本をたくさん作って欲しいと。その代わりにこいつだけは守るぞ、というような本もお願いしたいな、と思いますね。

**質問** 白百合女子大学の内藤と申します。確か今年の春に出た「ぼる・る」だったと思うんですけども、「横断する絵本」っていう特集をやっていて、絵本が現代的であるかそうでないかは、形式の新しさや古さではなくて、作家が自分でもわからないことをどれだけ表現しているかどうかだっという風に書いてありまして、すごく面白いなーと思ったんですね。絵本作家の先生方がそれぞれ、自分でもわからない事を表現しようとしたときに、この絵本のこの部分になったよ、とかそういうのがあったら教えて頂きたいな、と思ったんです。あるいはいつもそうなのか、あるいは絵本の現代性というか、コンテンポラリーというか、同時代性というか、そういったものは、どういう点にあると考えておられるのか、お訊きしたいんですけど。

**松本** 整理をしますと、要するに、現代的であるかどうかっていうのは、表現のスタイルではなくて、その作家自身がわからない事に挑戦して描いているかどうかというところで計られるということ。それに対して、どういうふうにか考えるかという事。それから現代的な絵本とは何か、という事ですね。どなたか答えたい方、どうぞ。

**田島** 木の実際の絵本を作ってるっていう話をしたんですけど、木の事をね、これはかごの木っていう木ですけど、その赤い実と、それからイシミカワっていう草の青い実を並べて、話を作ってるんですね。それはね、どういうことやってるかっていうと、木の実を何百と並べるわけですけど、そしたらこれを写真に撮るんですよ。そして、次はまた同じものを別な並べ方をして、別のものになって、また写真を撮る、そういう作り方をしていますね。で、ぼくはね、だいたい、どんな絵を描く時も、下描きを描かないで、いきなり絵の具付けたり、墨付けたりして、ぱーっと描いちゃうっていう描き方をやるんだけど、だからこういう事が出来るんだなって思うんですね。要するに、ただもう木の実がどう並びたがってるかを木の実に訊きながら、やってるわけですね。僕、廃棄物処分場反対運動、10年間やってきて、もう、最後にはブルドーザーの前に、こう、寝転がったり、パワーショベルにぶら下がったりして抵抗したんだけど、なぜそこまで命がけでやったかって言うと、30年から40年経ってるすごいいい木があるんですよ、森の中にはいっぱい。それをね、チェーンソーで切るんじゃなくて、パワーシャベルでね、グアーツと掴み切って、グニュグニュグニュともう、僕らが紙を、

がーってやってね、ギャーッってやるみたいに、何十年も生きてきた素晴らしい木をね、花が咲いてたくさんの昆虫が来てね、春になっていっぱい小鳥が集まって、たくさんの命を育てる木を何十本となくガアッってやっちゃうわけ。もう、許せない！ってかんで、俺を殺してからやれー、みたいな感じでね、そしたらもう、役人共が、廻りからこう、掴み掛って来たり、僕なんか木の根に掴まって絶対動かないようにしてるから、蹴っ飛ばされたりね、砂掛けられたりして。「何だよこの売れない絵描きが」、みたいに、すっごい馬鹿にするんだよね。「俺売れなくはない、少しは売れてんだ」、みたいなね。事を言いたいけど、それを言っちゃうと、もっと惨めになるから言わないけども。そうして戦った時にね、僕ね、木と一体化したような気がするの。その1年間の戦いの中でね。1年間やってたからね、泥まみれで。で、それが、僕は木と一緒にんだー、みたいなね。そういう気持ちでいるとほら、そのかごの木の実が、何になりたがってるかっていうの、すごくわかるわけよ。なんとなく。それは自信ないよ、自信ないけども、なんか、なりたがってるよ、みたいなかんじで。で、その写真とか撮ってるのは、ミイラの写真とか撮る変な奴でね、「田島さん、なんか、インドの芸術誌みたいだね」というわけ。で、僕は、そうかもしんないなって思うの。そのインドの占い師は、あの世に行っちゃった肉親の言葉とか聞いて、向こうの黄泉の国の人達の意志を、現世の人達に伝える仕事でしょ。僕は言葉を発する事の出来ない植物の意志をね、もう滅茶苦茶にされて殺されてしまった植物たちの遺言みたいなように並べてるっていう。錯覚かもしれないけど、そういうところで自分があるんだなっていうかんじがするわけ。もう21世紀に入ろうとしているけども、コンテポラリーっていうことは、今、同時代的に僕らが接していることで、環境問題、化学物質の漏水の問題、飛散の問題っていうのは、僕らの次の世代と、そのまた次の世代の未来を奪おうとしているわけで、そして今、この目の前で殺されていく、語る事の出来ないものたちの代弁を、アーティストはするべきじゃないか。だから、これからのアートっていうのは、環境問題と、切り離せないんじゃないか、って思いますね。それからさっき、彼女が言った、分からないものに対する挑戦、っていうことについては、やっぱり40年も絵本をかいてるとね、だんだん分かってくるわけですよ。この絵を使ってこうしていけば、こうなるみたいな。もう、シナリオが出来て、絵本をかき始めたら、もうこの終わりはこうなってる、みたいなね。けど、木の実はね、やってるうちに、ストーリーなんかどんどん変わっていくというか、最初から無いわけですから。木の実が、教えてくれているストーリーですからね。だからそういうことでは、すごく、さっきの質問に、ピタって合っちゃったから、思わず言ってしまったんですけど。

**松本** 現代的であること、というのが果たして何なのか、現代的であることがいいのかどうかっていうのは、分からないんですが、古典でも現代に生きてるものってのはやっぱり、現代的である要素を持ってるような気がします。では、何が残りうるのか、何が生命を保ちつづけるのかっていうのは、たぶん、読者に対しての問いかけが発しつづけてたりとか、そんなところにあるのかな、なんて思いましたけど。

**質問** 札幌から来ました、柴村といいます。

松本猛さんに質問したいんですが、私は、20年ぐらい、保育科の

学生に、絵本の講義をしてるんですね。その20年間で、田島さんの作品は、ずーっと使ってきて、たまさんが今日お話になったことは、とても良く分かるんです。「ふきまんぶく」を、学生に見せて、この絵本のすばらしさはこういうところにあるのよ、とか、それから、「とべばった」のすばらしさとか。今日話を聞いていて、自分の講義でやってきたことを、追体験するように良く分かるんだけど、最近困っているのは、90年代に出てきた、画家達を紹介しようとする、特に荒井さんの作品なんかは、学生にどういう風につたえていいか、分からないんです。私自身が、なんだかほぐらかされているような感じがして。でも、私が熱をいれて伝えなければ学生にも伝わらないですね。荒井さんの作品だけじゃなくて、90年代のスズキコージさんなんか、どうもいまいまいわかんないし。さっき松本さんが、エポックの話をされてたけど、90年代に入って、思想性がなくなったのか、そこで変わったのか、良く分からないんですが、ぜひ、解説してください。

**松本** 一言で言うとしたら、いいと思わないものは一生懸命学生に語る必要は無いと思います。逆に、荒井さんの本が、すごく好きなんだ、という方がいらっしゃるはずですよ。その方は、一生懸命それを伝えようとするだろうと思います。論理的な構成での思想というのは確かに、90年代の本は少ないと思います。ただ、いまの若い人達が、音楽を聴くということがものすごく自然で、それが無いと生きていけないような感じがあったり、そういう人たちにとって、荒井さんの本というのは、肌を通して自然に感じられてしまうようなものがあるのではないかな、という風に僕は思います。ただ、その物足りないっていう風に思われるのも、僕はわからなくは無いです。90年代の絵本がどうなのか、次の世紀がどうなっていくのかっていう、これは見当が付かない事なんですが、それは寧ろ、荒井さん自身がどういう風に、彼自身がやっぱり喋ってるの見てても、そよ風のようにしてますから。たぶん、明快な答えは出て来ないと思うんですね。でも、出ますか？

**荒井** いやー、いいんじゃないですか？本当にいいんですよ、全然オッケーですよ。90年代代表としてじゃないですけどね、細々と作ってるっていう立場ですから。別に選ばれてね、サッカーの選手でもないし、そういう意識で作ってないから、いいんじゃないんですか、全然。うん。

**松本** よろしいですか？

**質問** ちょっといいですか？松本さんが言うように、「イイですよ、別に、好きじゃなければ紹介しなくて」とかそういう事ではなくて、90年代に間違い無く絵本の曲がり角が来てるんじゃないか、っていう質問だったんですよ。

**松本** わかりました。東京も安曇野のちひろ美術館でも、90年代の絵本展っていうのをやったんですけど、選考も大変に難しく、どこに基準を置いていいか、というのが正直言って迷いました。ひとつの基準で選ぶ事が出来ないような作品が増えて来ていて、価値観も多様です。ただし、その70年代・80年代の絵本展をやってきて、90年代をやらなくていくと、90年代って何だったんだろうか、っていう、記録が出来ないんじゃないかという不安がありました。90年代というのは、多様化をしている事は間違い無いんです

が、多様化の中で我々自身がどういう風に生きていったら良いのかっていうのがわからなくなる人が多い様です。僕自身もどうやっていいかわからないんですけど、そういうような時代の反映があるのかな、と。今、田島さんが、現代は環境問題だよ、という風に仰って、で、これはひとつの考え方だと僕は思うんですね。それはそれとして、そういうものが例えば70年代なんかには割に強くあったような気がします。ただ、今の時代ってというのは、それが見えなくなっているんだろうな、っていう風に思います。だから、解答にはならないんですけど、ちひろ美術館は90年代を代表した絵本を選んで、展覧会をやりましたけれど、個人としては必ずしもそれだけでは十分ではなかった。また、選ぶ事自体が大変難しかったっていうことだけ申し上げておきます。

**質問** こんにちは、村中季衣といいます。ひとつ前の御質問で、たぶん「ぱ・る・る」で、わからないものを見ようとする、という事を書いたのは、自分じゃないかな、という気がしたんですけど、これはあの、読み手というか、享受者としての思いだったんですが、どうも絵本には、作者の計らいによって取り囲まれているような絵本、例えば、読者参加型の絵本だとか、仕掛け絵本というのに割と多いと思うんですが、真の意味で読者がそこから出る事が出来ないような絵本と、作者を作品が凌駕してしまったり、作者から離れてぽっかり隙間を見せているような本とがあるような気がするんですね。作者の計らいを超えて出来てしまったような絵本が、享受者からするとあるような気がして。そんな場合に読者が自由に関わりへと、解き放たれる、言わば開かれた絵本っていうか、そういう物の両方があるような気がする、という事で。新しい“場”としての絵本の可能性が生まれるのは、どっちが良い悪いじゃないんですけど、後者の方に多いかなっていう事を考えていて、今度その絵本の未来や表現の可能性を考えた場合に、そういうわかり難さというか、わからない物を見ようとする目っていうのがあるんじゃないか、という意味で、自分は使ったような気がするんですけど。質問に置き換えると、特に田島さんにお訊きしたいんですが、作り手の方にも、その作品が作者の思いを越えてしまうことを意識されてるかどうか、どんなもんでしょうか。

**田島** 自分の作品っていうのは、出せばどう風にも理解されたり解釈されても、それは、それはもう読者の方達、享受者におまかせするしかないわけですけども、やっぱり作者としては、というか僕は、仕掛けておきたいっていう気持ちがいつもあります。「しばてん」でもそうだし、「ふさまんぶく」をおのりえんさんが、“怖かった”って言ったのは多分、土俗信仰を根底において表現したもので、やっぱり怖い世界を書こうとしたんですね。だから、子供達はすごく怖がったんだろうと思うし、妙なものを背中に感じたかもしれないな、とったりします。ま、それは70年代までの絵本で、例えば「とべばった」で、僕が言いたかった事っていうのは、本当は無いんですね。あるとすれば、ああいう絵を描きたかったというだけの事なんです。あれはイジメから、のがれて、飛び立つっていうような事だったり、そういう風に捉えられるだろうな、とは思いつつながら、けどいろんな解釈して欲しいなって。これはこういう為に作ったんだー、みたいな事は、はっきり提示しない物を作りたい。今、作ってる「しらないまち」っていう絵本があるんですが、これはもうほとんど訳のわからない本になって来て、意識的には、さっ

き僕が言った、その“絵本の美しい花園を芸術家の泥靴で踏みにじるような本”という物を作ろうとしてるのと、もうひとつ、僕の絵本で、すぐ絶版になっちゃった絵本があるんですね。それは、その本を読み聞かせた子供が夜中にひきつけ起こしちゃって死にそうになった、っていう事で出版社に電話があって、“こんな危険なものはすぐ絶版に”っていう事で発行後一ヶ月も経たない内に全部回収されて、裁断された、「くもだんとかえる」という本なんですけど、その時僕はすごいやさしかったんですけど、今考えたら、これは僕の栄誉だになっていう風に思い始めてるんですよ。要するに、ひきつけを起こすような絵本を作らなきゃダメだったんじゃないかって。もっと、ノイローゼになるような絵本とかね、子供だけじゃなくて大人までひきつけ起こして苦しむような本を作ってやれ、みたいなのがあって。この「しらないまち」っていうのは、そういう意欲のもとに作ってるわけですけども、やっぱりそれは享受者の自由、受け手の自由ではあるんだけど、やっぱり僕としては、どこかでこう、時限爆弾を隠しときたいっていう、そういう思いで作ってます。

**松本** 絵本の未来、或いは表現の可能性という問題に関して言えば、これは作家だけの問題ではなくて、おそらく聴衆であったり、読者であったり、その人達が作っていく物なんだろうと思います。いずれにしても、絵本についての議論が沸き起こる中で、絵本の未来、或いは新しい表現の可能性っていうのが探られて行くと思います。その意味でも、絵本学会で皆さんに色々な意見を戦わして頂きたいと、心からお願いして、本日のディスカッションを終わらせて頂きたいと思います。どうも有り難うございました。



左から松本氏、荒井氏、おの氏、田島氏

【研究発表】6月11日(日)9:00~10:50

会場：伊万里市民センター

◎研究発表 A室

●絵本の読み合いにおける集団の作用

ー幼稚園の文庫活動を通してー

【発表者】川尾 章子(梅花女子大学絵本研究会)

【要旨】こども文庫(大阪府豊中市梅花幼稚園の文庫)に参加し活動を行っているが、509冊ある蔵書の内、大勢で読まれる人気絵本があることに気づいた。さらにそれにはスタッフと読み合う場合と子ども同士で読まれる場合との二通りの読まれ方があるようだ。「ごちそうさま」「まどから・おくりもの」などは主にスタッフが読み始めると子どもたちが集まってくる絵本であり、「おぼけやしき」「はじめての恐竜大図鑑」などはスタッフとともに読まれ、また子どもたちだけで読まれることも多い絵本である。

絵本はよく、親の膝の上で対面で読み合うのに一番適していると言われる。しかし、この絵本群はその条件にはあてはまらない。大勢で読むことによりお互いの想像力が相乗効果となり、新しい遊びに発展する可能性を含んでいる。

これらを読む子どもの反応や発語から、二通りの読まれ方を比較してみると、スタッフと読み合う場合には、子どもの方から知識や発見、感じた事を読み手に伝えようとする姿や、大人の方から誘いかけ子どもたちが連鎖的に反応し遊びへと発展していく姿が見られ、読み手と聞き手たちが絵本の世界を共有している様子がかえり。そして、大人と読むという守られた環境のなかで安心してその世界を楽しんでいるようである。子ども同士で読む場合には恐い絵本が多く、その様子は、目立った発語はなく、部屋の中央で頭を突き合わせ絵本を見つめたり、仕掛けを操作したりというように記録されている。そこには大人が介入できない子どもだけの空間が存在し、その中でお互いに情報を交換したり影響しあったりする事により絵本の持つ「恐さ」を共有し、それを遊びへと発展させることで消化させたり、反対に自分の中の恐さを深めたりしているように思われる。

集団で絵本を読む場合、子どもたちの気分や状況が影響しあい、一人で読むのとは違った多面的な読み方が可能になるのではないだろうか。

研究発表風景



●「場」としての絵本 ～対話の生まれる瞬間～

【発表者】村中 李衣(梅光女学院大学短期大学部)

【要旨】絵本の内側には、ことばという絵、絵ということば、そして、音、リズム、光など、たくさんの要素がからみあった「ものがたり」の力が潜んでいる。そのものがたりを挟んで人と人が出会い、人が自分自身と出会う。その出会いの瞬間を凝視してみることで、新たな絵本表現の可能性を考えてみたい。それは、また、「読み」の発見であり、「関係性」の発見であり、「場」の発見の契機にもなり得るだろう。

●創業期の金井信生堂刊行絵本に見る、「男の子」の描かれ方

【発表者】大橋真由美(絵本研究者)

【要旨】創業期(1908-1923)の金井信生堂刊行絵本には、明治末期から大正期という、時代の要求が色濃く反映されている。そして、子どもの本であるがゆえに、「子ども」の行動や成長が数多く描かれている。しかし、「子ども」と言えども、「男の子」の方が登場人物

としては桁違いに多いために、本発表では、特に「男の子」を取り上げて検討する。

まず、現存している創業期の金井信生堂刊行絵本(2000.2現在確認済み合計108冊)の内容を検討すると、以下の7項に分類できる。これらの絵本には複数の項に当てはまる内容もあるが、この7項に沿って、「男の子」が登場する絵本を抽出する。

1. 歴史・英雄・豪傑絵本：歴史教育絵本『曾我兄弟』山中古洞画・武田仰天子作 1908
2. 教訓絵本：こども勇ばなし『教育武士道モミジノマキ』本多穆堂画・桜菖編 1908
3. 昔話絵本：教育小供絵本41『昔噺金太郎』1922
4. お伽噺絵本
  - ①創作物語絵本：教育絵噺『感心ナ兄妹』荒川国波画 1913
  - ②日本の昔話や物語の翻案絵本：お伽教育画噺『二人桃太郎』荒井周朋画 1910
  - ③外国の昔話や物語の翻案絵本：於伽教育絵本『笛吹太郎』河合英忠画・武田仰天子作
5. 生活絵本：教育絵噺100『学べ遊べ』1916
6. 乗物絵本：お伽絵ばなし『小供と自動車』近藤紫峯画 1914
7. 時事絵本：教育絵本『軍艦ノ一日』河合英忠画 1910

以上9冊の絵本を調査対象として、これらの絵本に登場する「男の子」について、Ⅰ呼称、Ⅱ服装、Ⅲ他人との関わり、Ⅳ期待されて

いるもの、を中心に分析して、創業期の金井信生堂刊行絵本の中で、「男の子」がどのように描かれているかを考察する。

### ●太平洋戦争下の絵本シリーズ「少国民絵文庫」

【発表者】村川 京子（大阪薫英女子短期大学）

【要旨】「少国民絵文庫」は中央出版協会から太平洋戦争末期1943（昭和18）年5月から戦前に6冊出版された。企画編集は巽聖歌で、巽聖歌、塚原健二郎、小出正吾、佐藤義美、酒井朝彦、平塚武二らが文章を、山下大五郎、渡辺菊二、大沢昌助、中尾彰、深沢省三、武井武雄、小山内竜が絵を担当している。この時期には珍しく上製で、価格は70銭、菊半裁の小型本である。

太平洋戦争の末期には国民生活の根本が疲弊し、子どもの生命が国内において戦火にさらされる状況となった。近代日本の歴史上、子どもにとって最も過酷な時代であった。

当然、絵本の内容や出版状況も種々の統制を受け、危機的なものとなっていた。しかし戦争遂行に全面的に協力的であることを要求される中でも、大政翼賛の戦時色一色の絵本ばかり出版されていたのではない。「少国民絵文庫」も現実の子どもを描き、読者対象としているだけに「絵本は美しく無くてはいけない。又、健康で、たのしくなくてはいけない」という理想と「所詮夢は夢で、現実の中では、空想や美しすぎる言葉はためらわれます。」（塚原健二郎）という現実認識の苦衷のなかで描かれている。良心的出版であったからか、その企画の継続として7冊目の「ニッポンノアマ」が戦後の1947（昭和22）年3月に出版されている。戦況悪化の中、企画編集者、画家、作家の意図が作品としてどのように表現されているのかを考察したい。

### ●一五年戦争下の絵本

【発表者】鳥越 信（聖和大学）

【要旨】近代日本の絵本の歴史にとって、一五年戦争下の絵本状況ほど、さまざまな意味において興味のある、ダイナミックな時期はなかったのではないだろうか。

この時期の絵本のきわだった現象として目につくのは、「絵本」という呼称が一般的に定着したこと、「主婦之友絵本」「鈴の絵本」「講談社の絵本」「国民絵本」など多数の絵本シリーズが刊行され、絵本の質的向上をめざした試みが積み重ねられたこと、1887年の「WAMPAKU MONOGATARI」以降とだえていた海外のオリジナル絵本の翻訳・移入が見られたこと、製菓・製薬会社などの企業絵本の参入が見られたこと、絵本・絵雑誌に対する批評や研究がはじまったこと、などの動きである。

そしてこれら全体をおおっていたのは、満州事変以後一五年に及び日本の侵略主義的軍国主義の体制であり、特に1938年の言論統制以降は、国策が露骨に前面に出てくる。

従ってこの時期、全体として見れば子どもたちに軍国主義思想を注入するための戦争絵本、軍事絵本が圧倒的に多かったことは、まぎれもない事実である。

しかし同時に、大正デモクラシーの中で育ってきた進歩的・良心的な作家や画家、出版人たちによる意欲的・実験的な絵本が数多く生み出されてきたことも否定できない事実で、両者のせめぎあいがダイナミックな絵本状況を作りあげてきたともいえる。

今回の発表では、従来殆ど鑑入れの行われなかったこの時期の代表的な絵本シリーズをとりあげ、デジタル・ビデオで紹介しながらそ

の到達点や問題点を考えてみたい。また、とりわけ言論統制がもたらした「復興現象」について、マイナス評価だけではすまない面をどう考えるのか、その歴史的教訓として何を今後に生かすのか、など「一五年戦争下の絵本」が日本の絵本史の中でどう位置づけられるのか、についても考えてみたい。

### ◎研究発表 B室

#### ●絵本と童話の間—童話の絵本化をめぐる

【発表者】佐々木由美子（白百合女子大学大学院児童文学専攻）

【要旨】多くの絵本の中で、気になる存在がある。最初、幼年童話の形で出され、後に絵本になったものだ。たとえば、『クマのプーさんえほん』（岩波書店）などである。これは、A・Aミルンの『クマのプーさん』のお話を各話ごとの別冊にし、挿し絵を大きく引き延ばして、絵本の体裁をとったものだ。原作の絵を損なうことなく、そのまま生かした良心的な本づくりは評価できる。また、別冊にし、絵が大きくなったことで、読者が気軽に手に取れるようになった利点などもあげられよう。しかし、〈絵本〉とは何か、〈絵本〉独自の表現形式とは何か、を考えていった場合、『クマのプーさんえほん』は、本当に〈絵本〉なのだろうかという疑問がわいてくる。『クマのプーさん』と『クマのプーさんえほん』は、本質的には、まったく変わってはいない。『クマのプーさんえほん』は、大きな挿し絵の入った本なのだ。

では、逆に絵本化して成功した例はと言えば、中川李枝子・大村百合子による『ぐりとぐら』（福音館）があげられるのではないだろうか。「母のとも」（第119号、1963年6月）に「3歳の子どもに読み聞かせる話」として掲載された「たまご」とそれを絵本化した『ぐりとぐら』の間には、確かに大きな差異が存在している。童話の絵本化の例は、ほかにも多く見られる。最近も佐藤さとの『おばあさんの飛行機』が、大型絵本化されて新たに出版された。寺村輝夫『ぼくは王様』、松谷みよ子『ちいさいモモちゃん』、神沢利子『くまの子ウーフ』など、現代児童文学の古典的作品も、それぞれ絵本化されている。こうした作品は、果たして〈絵本〉として、成り立っているのだろうか。そもそも絵本と童話では、表現形態がまったく異なるものだろう。童話としての表現、絵本としての表現。童話が絵本化される時に、失うもの、得るもの。それらを比較検討してみたときに、絵本表現の独自性も見えてくるのではないだろうか。

#### ●絵本「雪渡り」に見る視覚化の問題

【発表者】柴村 紀代（藤女子大学）

【要旨】宮澤賢治の童話『雪渡り』は、東北の春先に起きる自然現象を巧みに使った構成になっている。「雪渡り」とは、雪国の2、3月頃、日中の暖かさで雪の表面が溶け、夕方からの急速な気温の低下でその表面が凍り、クラスト状態になることを言い、北海道や東北でもよく見られる現象である。

賢治は、この「雪渡り」を狐と出会う異次元の出入口に使い、四郎とかん子の二人だけが狐と出会い、狐の幻灯会に招待される。招待状には「十二才以上の来賓はお断り」と書いてあり兄さん達は行くことができない。これを「十一才以下の子どもだけが行ける世界」（統橋達雄「賢治童話の展開」・大日本図書・S62）という解釈も成り立つが、雪渡りの現象を考慮に入れると、固くクラストした雪ではあっても、大人の体重では踏み抜いてしまうことから、「雪渡り」が異次元の入口に使われた時、体重の軽い狐と子どもだけが

出会う世界と設定されていたとも考えられる。

このように作品の鍵をにぎる重要な要素である「雪渡り」を、絵本によって視覚化した時、それがどのように表現されたかを見てみたい。

賢治の文章は、独特の比喩を使ったもので、比喩を通して伝わって来るこの季節の美しさを、具体的に視覚化することはかなり難しい。

(1)『雪渡り』堀内誠一・絵 福音館 1969

(2)『雪渡り』たかしかがこ・絵 偕成社 1990

(3)『雪渡り』佐藤国男・絵 ベネッセ 1990

三人の画家による絵を本文と照らし合わせながら検討し、その中でも特に、函館在住の木版画家佐藤国男による『雪渡り』は、木目を生かした独特の世界を持つものである。

佐藤国男の版画を中心に、賢治童話を視覚化することの問題点を整理し、以後の賢治絵本の解明の第一歩としたい。

### ●昔話絵本を考える ―絵本との出会い・物語との出会い―

【発表者】岩崎真理子（日本児童教育専門学校）

【要旨】子どもに向けて絵本が生み出されてきたその歴史をふりかえると、絵本的要素をもった絵本の祖型ともいえる、ヨーロッパの一枚絵やチャップブック、日本の赤本などに共通していえることのひとつは、いずれも各国の昔話を題材にしたことがあげられます。近代的絵本が登場し、文も絵もオリジナルな創作絵本が次々に創られても、昔話の絵本化は試みられ、昔話絵本の可能性に挑戦しています。

実際調査した限りでも、戦後50年間のあいだに、50種類もの昔話絵本が様々な出版社からシリーズ化されて出版されています。

昔話はもともと口承文芸であって、語りならではの構造や特徴をもっています。昔話絵本についての先行研究では、この点が問題点として論じられています。つまり、昔話絵本は、昔話なのか絵本なのかという二極分化的なところにその論点があるようです。

今回は、昔話絵本と昔話との根本的な違いを明確にするとともに、絵本としての昔話絵本の可能性について、その一端を発表します。

### ●江戸期から現代までの「かちかち山」絵本の変遷

【発表者】沼賀美奈子（白百合女子大学児童文化研究センター研究員）

【要旨】江戸期から、現代に至るまで作られ続け、読まれ続ける昔話絵本の魅力とは何か、また昔話絵本とは何か。そうした問題を考える上での第一段階として、昔話の絵本化の流れを明らかにしたい。取り上げるのは、5大昔話の一つ、「かちかち山」である。江戸期から現代までの「かちかち山」絵本、122作品を分析、考察した。それぞれの場面ごとに、絵本化の変遷を追うと、時代ごとに、重点を置いているイメージの異なることが、明らかになった。江戸期から、明治21年の作品までは、狸が婆を殺害する場面に焦点があてられ、狸が捕獲される場面や、兎が狸に火を付ける1回目の復讐は、重要視されていない。明治28年から昭和初期までの作品では、各場面の因果関係の描写に力を入れ、狸が捕獲される場面や、兎が爺の仇を討つ理由について細かい説明がなされる。昭和14年から41年までの作品は、婆や狸を救うことに重点を置いている。最後に狸を助けてしまうために、兎が狸の火傷に唐辛子を塗る2回目の復讐を印象的に描いている。昭和42年からは、爺の労働、狸の捕獲場面と、3回目の復讐が特に重要視されて描かれている。以上のように、絵本化の際、重点を置いているイメージによって、

江戸期から現代までを大きく4期に分けることができる。そして、これらをいくつかの角度から見ると、この4つの期間を、「かちかち山」絵本の原型誕生期、赤本の伝統から脱する、新しい表現の模索期、第二次世界大戦などとの関連もあり、絵本表現の画一化と教育的配慮による退行期、昔話ブームや読書運動の盛り上がりなどを背景に持つ発展期ととらえられるのではないかと考えている。

### ●大正期における「こびと」像の考察

～絵本・児童文学作品を中心に～

【発表者】池田 美桜（白百合女子大学大学院博士課程2年）

【要旨】「こびと」は、洋の東西を問わず、絵本や児童文学作品上において、またイラストレーションやキャラクター商品等において取り上げられることが多く、我々日本人にとっても非常に馴染み深い、想像上の超自然的生き物のひとつである。

しかし、「こびと」という言葉が「極めて身体の小さな、人間と同じ姿形をした超自然的生き物」を意味する語として広く日本人の間に定着するようになったのは、西洋の文学作品の移入が本格化した近代以降のことである。例えば、明治期に受容が始まった「グリム童話」には、「白雪姫」の7人のこびとを始めとして様々な「こびと」が登場するが、翻訳開始時におけるそれらの挿絵や翻訳語をみると、それが現在の我々が抱いている「こびと」のイメージと大きく違っていることに驚かされる。そこには、新奇のものを受け入れる際に生じがちなある種の混乱を見ることができる。しかし、その後の度重なる翻訳と、日本人作家による「こびと」の創造とによって、昭和に至る頃には翻訳移入初期に見られたような混乱は見られなくなった。

それでは、移入から定着に至るまでの過渡期にあたる大正期における「こびと」像とはいかなるものだったのだろうか。また、西洋の「こびと」を知る以前の日本の「こびと」（もしくは、それと類似のもの）は、大正期の「こびと」像にどのように影響しているのか。本発表は、この問いに答えるための一つの試みである。

尚、大正期の「こびと」像を考察するにあたり、本発表では、大正期に出版された絵本や児童文学作品（例えば「画とお話の本」シリーズ第3巻の「大男と一寸法師」等）における「絵画表現」と「言葉」に注目した。

研究発表風景



◎研究発表 C室

●科学絵本・知識絵本における「話の構成」の問題

【発表者】 瀧川 光治（聖和大学大学院研究員）

【要旨】

1. はじめに

物語の絵本には、「はじめ・なか・おわり」（序破急、起承転結、発端と展開・クライマックスと結末）という物語の構成と、事柄のくり返しという手段（『三匹のこぶた』など）をうまく組み合わせ、これまで多くの作品が生み出されている。また、そこに場面の命ともいえる「絵」と融合することで、子どもたちの空想世界を広げてきた。そこで科学絵本・知識絵本と呼ばれているものを、そのような「はじめ・なか・おわり」という物語構成と、事柄のくり返しという手段との組み合わせの視点から考察してみる。

2. 福音館『かがくのとも・傑作集』の植物関連を例にして

植物を題材にする場合、1つの植物をテーマにしてその植物の季節による移り変わりを主題にするものと、種々の植物を取り上げながら科学上の「花」の概念や「たね」の概念を主題にするものがある。

前者の「1つの植物の時間経過」に分類されるのが、たとえば『たんぼぼ』で、「たんぼぼをしていますか」という場面から始まり「冬の姿・春の姿・花から実へ・わたげの旅立ち」そして、そのわたげが芽を出すという話の構成である。季節という時間軸に沿って、たんぼぼという植物の一生（生態）を描き出しており、それが「たんぼぼ」という物語のストーリーになっている。後者の「種々の植物から科学概念へ」に分類されるのが、たとえば『はながさいたら』で「このきれいなはなを みたことがあるでしょう。じゃあ、はながなぜさくのか知っていますか?」というところから「さくらの花と実・かぼちゃの花と実・まつの花と実・とうもろこしの花と実・くりの花と実・いちょうの花と実」とく花が咲いたら実ができる」ということをくり返し話を進めていく。1つの植物だけでなく種々の植物、また通常の花びらのきれいな花だけでなく、花とは思えないようなものも取り上げ、くり返し描いていくことによって、帰納法的に「花」という概念を結末で知らせてくれる。

3. おわりに

瀬田貞二のいうところの「（これは〇〇です、という）カタログ式」のものもノンフィクション絵本には多いが、そこから科学ということ志向するならば、やはり話の構成／くりかえし、つまり科学絵本・知識絵本における「話の構成」をどう煮詰めるかが課題になるであろう。

●林明子の絵本表現

—「はじめてのおつかい」から「こんとあき」へ—

【発表者】 斎藤 幸代（梅花女子大学絵本研究会）

【要旨】ある幼稚園での文庫活動を通して、子ども間で定着した人気のある絵本の1つとして、林明子の文と絵による「こんとあき」があがってきた。特に女の子たちは林明子の描く絵に親しみを感じ、「かわいい」と連呼して、林明子の絵に魅了されている。

これまで、林明子は筒井頼子との共著『はじめてのおつかい』をはじめとする物語絵本を高く評価され、日常における子どもの冒険とその感情を子どもの視点に立って描いた絵本画家として注目されてきた。『はじめてのおつかい』は丸みのある描線に、カラーインクと色鉛筆を効果的に使って、淡くやわらかな色合いと暖かなイメージ



研究発表風景

をつくりだしている。描かれた子どもの表情は豊かで、子どもの座り方や自転車をさせて壁にへばりつく女の子の緊張に満ちた動きなど、子どもの瞬間の表情を的確に捉える画家の観察力の鋭さと子どもに対する深い愛情がうかがえる。そして、この絵本は林明子の絵と筒井頼子の文のバランスのよさ、構成の緻密さ、子どもの表情の描き方とその完成度の高さが評価され、最もよく読まれてきたとされている。しかし、文庫では、貸出回数は5年間でたったの7回、文庫の時間内ではほとんど読まれなかった。なぜ受け入れられなかったのだろうか。一方、『こんとあき』は貸出回数が46回と多く、毎年人気の絵本となっている。『こんとあき』は文と絵とともに林明子の手によるもので舞台を祖母の故郷「鳥取砂丘」にし、主人公の名前を「あき」とするなど作家の思い入れの強い作品である。子どもたちは、見開きに描かれた夕闇せまる砂丘を、あきがこんを背負ってとぼとぼ歩いていく場面をしんみりとした表情でじっと見つめていた。この場面は特に巧みな色彩表現が使われている。砂漠の暗い色と夕日の黄色とあきの服の原色とのコントラストが見事に孤独なあきの心理を表現している。このような色による内面表現は『はじめてのおつかい』では見られなかった。子どもの反応を考慮に入れながら、林明子の絵本表現の変化、『こんとあき』における林明子の色使いの魅力を探ってみたい。

●センダック絵本における触発作用

—「ピエールとライオン」を中心に—

【発表者】 小澤佐季子（梅花女子大学大学院研究生）

【要旨】モーリス・センダックの絵本のもつ力は、子どもたちと一緒に読んだことのある者なら誰でも、実感されていることだと思われる。筆者自身も、梅花幼稚園での「こうめ文庫」（絵本クラブ）の活動において、センダックの絵本が、子どもたちの心をぐっと魅きつける要素を備えていると感じてきた。センダックの有名な三部作「かいじゅうたちのいるところ」「まよなかのだいどころ」「まどのそとのそのまたむこう」もさることながら、「ちいさなちいさなえほんぼこ」シリーズの「ピエールとライオン」（じんぐうてるお訳富山房）は、子どもと共に読んで、その反応が著しい1冊である。センダックの絵本には、共通して、＜大人＞対＜子ども＞の構造があり、子ども側の＜大人＞からうける抑圧の大きさが、「かいじゅう」「パンや」「ゴブリン」など、形を変えて描かれている。「ピエールとライオン」の「ライオン」もその象徴的な例で、両親に反抗するピエールは、その存在をライオンに飲み込まれる。自分が食べられるという究極の怖い体験を通して、ピエールは新生する。読者の子どもたちは、自分のなかに芽生えている大人への反抗心を「ぼく、

しらない！」と叫んで発散した後、一瞬ライオンに食べられる場面で不安そうな表情をし、ピエールが出てきたところで嬉しそうに笑う。結末の「はい、わかりました」というセリフに、満足がいかに文句を言う子もいるが、この本を通して読み手の大人への反抗を楽しむことで、自分のなかに抑圧されているものを発散できる効果があるようだ。この本に刺激されて、急に元気になる子もいる。センダックの絵本は、「盛り上がり→不安→緊張→解放→安心感」というプロットを見事に用いながら、子どもの内面を捉え、子どもの気持ちを触発する作用をもっている。

### ●絵本の世界体験にいかされる演劇的手法

#### —アイリーン・ハースの場合—

【発表者】内藤 貴子(白百合女子大学児童文化研究センター 研究助手)

【要旨】絵の動き、音楽的要素、細部の書き込み、場面と場面のつながり、絵と文の同質性など、優れた絵本の技巧はさまざまに論じられている。ここで、ページをめくるごとに読者によってなされる、絵本の“世界体験”に注目したい。体験の時空間をより印象的に創りだし、絵本の世界を読者に主体的に体験させるために、演劇の技法が有効だと考える。演劇は、“世界体験”の時空間を効果的に創り出すために、2000年以上もの時間をかけて磨きあげてきた技法をもっているからだ。今回は、舞台美術も手掛け、絵本にも演劇的な表現をいかしているアイリーン・ハースをとりあげ、絵本世界を“体験”させるための工夫を、演劇の技巧に照らして探る。ハースの絵本から演劇的要素を見出すことは、ハースの絵本の独自性を見出すことでもある。

ハースの絵本には演劇言語がふんだんに使われている。絵本に、ことば、声、顔の表情、動作、姿勢、配置、色、衣装、背景、照明、効果音などの演劇言語が取り入れられると、活字になったことば、そして印刷された絵は強調され、生命を吹き込まれ、読者の想像力を展開させる原動力となる。例えば照明の技法は、同じ対象物でも、違う色の照明、違う方向からの照明を当てることで、特定のイメージを表現したり、読者の視線を導いている。音楽・音響の技法は、静止した絵に時間性を生みださせ、読者のファンタジーが内側からわきあがるのを助ける。衣装は登場人物の個性を伸ばしたり規定する。読者の位置を意識した効果的な配置は、物語の焦点を鮮明にする。劇的韻文は状況を強調し、場面を集約する。

松居直氏は言う。「絵本は子どもが見て楽しむものではなく、入って行って楽しむものである。……トリップ出来るか出来ないかなのである。」映画やテレビ、ゲームのように与えられる動画や音に手をひ

かれるのではなく、読者の主体的なファンタジーの力で「トリップ」するために、ハースはあえて作品と読者との間に演劇的な距離を保っているのである。

### ●絵本でシュールと遊ぶ

#### —Anthony Browneの絵本に関する一考察—

【発表者】石井 光恵(日本女子大学)

【要旨】「アントニー・ブラウンの絵本をみると、シュールリアリズムの画風、特にルネ・マグリッドの影響が一目瞭然である。現実を越えて現実をみる目で、タブローの一枚絵でなく、一冊の絵本を構築する力は、ブラウンの独自のものである。絵が読者を圧倒するほどのエネルギーをもっているため、文の方が論じられることは少ないが、不安感や孤独を表現するシンプルな文もよく絵とマッチしており、完成度の高い絵本をつくってきている。」

これは『イギリスの絵本の歴史』(岩崎美術社 1995)での三宅興子によるAnthony Browneの絵本評である。Anthony Browne(1946～)は、Gorilla 1983、The Tunnel 1989、Zoo 1992、やWilly the Wimp 1984、Willy the Champ 1985、をはじめとするウィリーシリーズでおなじみの現代イギリスを代表する絵本作家である。この絵本評にもあるように、彼は職業として病院の手術室や霊安室で人体解剖図等を描くと言った経験から、ハイパー・リアリズムの技法を身につけ、これとシュールリアリズムの表現を結びながら絵本創作を展開している。絵本の表現技法としても、また子どもの孤独を描くといった点からも、非常に興味深い絵本作家であるが、日本ではまだあまり研究が進んでいないことから、本研究では、「絵本にシュール表現を駆使すると……」という視点から、彼の絵本について考察を進めて行きたいと考えている。そして、子どもは彼の絵本でシュールに出会い遊ぶことになるが、どう絵本でシュールと遊べるのか、また絵本でシュールと遊ぶことによってそこから何が生まれてくるのかを考えていきたいと思っている。

### ◎研究発表 D室

#### ●日本語を母語としない子どもに対する絵本を用いた日本語教育—日本語イマージョン教育のケーススタディ—

【発表者】山口真帆子(横浜国立大学大学院 教育学研究科 国語教育日本語教育研究専修)

【要旨】本研究では内容に沿った絵が文章と共にある「絵本」を使って、年少者を対象とした第2言語としての日本語の読解学習のあり方について研究した。

筆者はアメリカの日本語イマージョン教育を行っているR小学校で3ヶ月間小学校3年生の5名を対象に絵本を用いて読解授業を実践した。外山 1988の絵本を用いた英語教育の方法を参考にして、この読解授業では絵本を、①読む前(挿し絵をみて描写させる)、②読んでいる最中(内容について確認する)、③読んだ後(物語再構築法)にタスクを与え、質疑応答を通して生徒の読解の仕方を観察、談話を録音した。そのデータをSarig(1987)が分類した4つの読解ストラテジーを参考に、生徒が用いた読解ストラテジーを①スキミングした場合、②語や文型に注目して考えた場合、③全体の流れ・既知知識から考えた場合、④絵から考えた場合、の4つに分類し、各ケースを分析した。

各絵本に注目して考察した結果、①「繰り返し」がない絵本を読む

研究発表風景





と生徒は全体の流れから考えることが難しく絵だけで考える傾向があり、②挿し絵が躍動感や迫力のあるものの方が生徒は様々な読解ストラテジーを駆使しようとして読解が促されることがわかった。各生徒に注目して考察した結果、①生徒は読んだ後でさえ、まず絵から考えて理解するケースが多く、②よく用いるストラテジーが決まっている生徒がいることがわかった。

各読解ストラテジーの傾向を考察した結果、①絵から考えることが多い、②スキミングができて意味をわかっていないことが多い、③本文の単語に注目して読解できたケースが少ない、④全体の流れから考えても、本文を無視している場合があるなどの点から、生徒はあまり本文に注目して読解ができていないことがわかった。このため、絵と本文を関連づけて考えさせるケースに注目し、絵本を読解するのに効果的な読解ストラテジーを活用する方法として、①挿し絵で予想させてから本文を読む ②絵から考えた単語や内容をスキミングさせる、という2つをあげた。

絵本を用いた読解授業の成果として、①日本語の本を読むのに積極的になった ②絵で楽しみながら長い文章を読む余裕がみられるようになった ③挿し絵と本文を関連させながら読み進められるようになった ④質問カードを使ってゲーム感覚で楽しむことができ、絵本だけでなく日本語を読むことにも積極的になった、というようなことがみられた。

以上のことから、第2言語としての日本語教育に絵本を用いることの将来性を見出し、今後これに関する量的研究と長期的な観察による研究などに加え、第2言語としての日本語学習をする子どもを対象とした絵本の開発の必要性を考えていきたい。

### ●「文章のない絵本」における作者の「工夫」に関する一考察

【発表者】 千田 篤（絵本学会会員）

【要旨】 私は、「世の中に流布している絵本の大半がたまたま子供向けだからといって、絵本という分野が子供向けだと限定する所以はない」と考えています。

そうした視点で「文章のない絵本」をとりあげます。

「文章のない絵本」には、文章に代わる「工夫」が作者によって施されています。それらの例として、次の8冊の作品を取り上げます。

- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| 1. 「ゆきだるま」    | —コマ割りの多用—          |
| 2. 「かさ」       | —色彩の活用—            |
| 3. 「旅の絵本」     | —狂言回しの登場—          |
| 4. 「RIVER」    | —定点観測—             |
| 5. 「あかい ふうせん」 | —背景の省略—            |
| 6. 「ズーム」      | —絵本の固定観念を活用したトリック— |
| 7. 「ぞうのボタン」   | —主題の繰り返し—          |
| 8. 「くさむら」     | —「情動」の描き分けと、編綴—    |

これらの作品における作者の「工夫」を感知するには、読者の理解力が重要であり、読者の理解力は、年を経ることによって経験として帰納的に拾得できるものが多いと思います。

そうしたことを考えると、絵本に文章がないことは決して特殊な形態ではないのだとして広く受け入れられるとき、絵本は大人の文化の1つとして認知される1歩となると考えます。

### ●絵本「ノンタン」の表現構造

【発表者】 笹本 純（筑波大学芸術学系）

【要旨】 キヨノサチコ（おおともさちこ）・おおともやすおみ作の絵本「ノンタンあそぼうよ」のシリーズは、1976年の初刊以来今日まで、各巻とも200刷以上の版を重ねる大ベストセラー・ロングセラーである。幼年期の子供たちを中心とする圧倒的な数の歴代の読者によって支持されてきたわけだが、この絵本が、これほどまでに人を引きつける要因はどのような所にあるのだろうか。

絵本としての「ノンタン」の魅力は、親しみやすくシンプルな物語内容もさることながら、表現の形式面において、絵本というメディアの特性を活かした卓抜な工夫がなされている点に由来すると思う。「ノンタン」は幼児向けの絵本であるが、その表現構造は幼稚でも素朴でもない。この絵本では、予め周到に整えられた絵や言葉などの表現要素が、絵本というシステムに即して適切に関係づけられ、統合されている。その為そこには、リズムカルで変化に富み、停滞することのない「語り」の流れが存在する。いったんこの流れに身をゆだねると、次々と頁をめくって行かざるを得ない強力な誘導を受ける。そしてその受容は、優れた物語や音楽によって得られるのと同様の大きな喜びと結びつく。読者である子供たちは、表現の成り立ちを意識することは決してないだろう。しかし、そこから得られる深く豊かな楽しさ・面白さを見逃すことはない。それを鋭敏に感じ取り、それをもたらすものとして「ノンタン」を率直に支持するのである。

本発表では、「ノンタン」という作品の、絵本表現としての形式面の成り立ちについて少しく細目に渡って分析してみたい。それを通じてこの作品の魅力の源泉に迫れるものと思う。

### ●絵本と含意 —語用論から見た絵の機能—

【発表者】 前沢 明枝（青葉学園短期大学）

【要旨】

#### 1. 絵本の絵の機能

- (a) ストーリーを展開させる
- (b) ストーリーを語る
- (c) ストーリー全体のトーンを設定し、文脈の把握を促す
- (d) ストーリーのクライマックスや、強調したい点を印象付ける
- (e) 言葉からでは理解・想像しにくい部分を伝える
- (f) 言葉の意味を明確にする

今発表は、このような絵の機能を、語用論の観点から再考するものである。



研究発表風景

## 2. 語用論とは

語用論は、1980年代に言語学の一研究部門として定着した。その目的は、コミュニケーションにおいて、発信者の「意図」と受信者の「解釈」を研究することである。発話された単語一つ一つの意味を知ることと、発話全体の意図を解釈することは違う。そこで重要になるのが「含意」である。

## 3. 含意

受信者が、発信者の発話から含意を得るには、両者の間である程度共有された知識（文化や毎日の生活の中で学習される常識・慣習なども含む）が必要となる。子供の場合、発話や発話の流れから得る情報が、大人に比べて限られている可能性がある。大人に伝わっている含意が、子供には伝わらないことも考えられる。絵本の絵は、言葉では語られていない含意を伝えるメディアとしてとらえることができる。また、含意や言葉にされていない発話者の心情に思いをめぐらす習慣・経験の無い子供にとっては、それらの存在を示す役割も果たしていると考えられる。

## 【ラウンドテーブル分科会】6月11日13:30～15:30

### ●ラウンドテーブル1

絵本作家研究 レオ・レオーニ

コーディネータ 香曾香部秀幸（絵本学会運営委員・神戸親和女子大学）

話題提供者 川端 誠（絵本作家）

藤本朝巳（フェリス女学院大学）

このRTは、昨年10月12日に89歳で亡くなったレオ・レオーニへのオマージュを兼ねて、彼の造形作家としての足跡を確認し、その絵本表現を正當に見直そうと企画したものです。

レオーニは、絵本作家としてあまりにも有名な存在ですが、一方で「FORTUNE」誌や「TIME・LIFE」社のアートディレクターとして、1950年代のアメリカのグラフィックデザイン界の先頭を走り、さらに“平行植物”シリーズをはじめとする立体や平面アーティストとして幅広い創作活動を展開してきたことは、日本ではあまり知られていません。今回のRTでは、レオーニのユニークな造形作品を映像で紹介しつつ、その多岐にわたる創作活動の中でも、絵本作品にこそ彼の経験・思想・意識が全て反映されているという視点に立って、レオーニの絵本の視覚表現の多彩なあらわれについて議論を深めようと試みました。

川端氏は、学生時代「フレデリック」に出会って絵本に目覚め、絵本表現の文法を学んだ思い出と、特徴的な演劇（舞台）的空間表現、作品に投げかける自己主張の強さ、自作「鳥の島」に深く影響を与えた「スイミー」について、実際に絵本を「開き読み」しながら語られました。藤本朝巳氏は、絵本の表現に初めて抽象の概念を取り入れたと評価される「あおくとさいろちゃん」の視覚表現を「点」という構成要素に着目して分析する方法を、一般参加者にも分かり易く平明に解説されました。また、レオーニの自伝（翻訳未刊）の一節を紹介し、彼の空間意識について分析されました。

さらに、レオーニの多くの作品の根底に流れる“自己認識”のテーマ、翻訳における意味のずれの問題、文字（字体・字組）を含めたグラフィックデザイン的特質などが話題に上り、フロアからも、「あおくとさいろちゃん」の普遍性の問題、モザイクや仮面や立体などの造形作品と絵本表現の間にある同一性、“平行植物”シリーズ等に見られる深い思考性、レオーニに送った手紙の返事の思い出、点と色面との認識の違い、多義性と国際性等々、興味深い発言が次々と飛び出しました。

語るべき話題は尽きず時間切れとなったため、残念ながら焦点を絞り込んで議論を深めることは叶いませんでしたが、レオーニについて今後検討すべき問題の端緒が多少は明らかになったのではないかと思います。（香曾香部秀幸）



ラウンドテーブル1 川端誠氏

## ●ラウンドテーブル2

### 絵本編集の未来

コーディネータ 澤田精一（福音館）

話題提供者 米田佳代子（徳間書店）

土井章史（トムズボックス）

川端 強（童話館出版）

まず、編集者が集まって、絵本編集について語るというのは、絵本学会で初めてのことでした。絵本研究では、絵本について、その内容、形式、作者の意図、技術等々の議論はありましたが、その絵本が仕上がるまでに、編集者の判断が、どのような段階で、どのような思考のもとでくだされたかについてはふれてきませんでしたし、いざそのことを研究しようとするれば、それはかなり困難な作業であったはず。ひとつには編集者は「黒子」といわれ、表にでません。そして黒子ならば誰がやっても同じであるかということ、実はそうではなく、仕上がった絵本を見ればその個性をうかがうことができます。しかも、その絵本が刊行されたのは編集者が判断したからであって、そういう意味で編集者は最終的な判断をくださずでもあります。1冊の絵本における編集者の役割というのは、きわめて大きいといわざるをえません。

そうしたなかで、ここに3人の編集者が登場しました。長崎・童話館の川端強さん、徳間書店・米田佳代子さん、フリーの編集者である土井章史さん。いずれも個性豊かな編集をされていることで知られている方々です。川端さんは、ブッククラブの活動をされていくなかで、出版をはじめられ、書店ではなかなか売れない絵本がブッククラブで着実に流通することによって、地味だけれども良い絵本の出版を可能にしていること。米田さんは、以前からポーニャ、フランクフルトのブックフェアに参加し、外国出版社との交流をもちつつ、1冊1冊の絵本をベテラン、新人の区別なく丁寧に選びだして、出版していること。土井さんは、あとさき塾で新人の絵本作家の育成を目指しながら、自分がよいと思う作家の作品を着実に編集・出版していくことで、絵本の世界を広げていること、などが報告されました。

「絵本編集の未来」とはいえ、そこになにかとてつもない方法があって、今までに見たこともない絵本がつくれるというのではなくて、着実な日々の編集活動があり、そのなかで、それぞれ編集者が絵本の未来に接続できる仕事をしているということが、明らかになりました。（澤田精一）

## ●ラウンドテーブル3

コーディネータ 田原和子（久留米本の学校）

話題提供者 亀田邦子（国際子ども図書館館長）

白根恵子（福岡県立図書館）

「図書館の未来」というテーマと「絵本」を、どう結び付けて行くかが、このテーブル担当者の当初からの課題でした。

幸い、この5月に開館したばかりの「国際子ども図書館」館長の、亀田邦子さんが、話題提供者として参加して下さるということだし、参加者の多くも、この話題に一番関心を持つのではないかと思います。出来る限りの時間をこれに割くことにしました。

まず最初の20分を福岡県立図書館員として子ども室サービスに係わり、研究を続けてこられた白根恵子さんに、図書館の側から見た、絵本を含む資料の変化、利用者の親子の変化、また、業務委託などに見る、図書館運営の変化など、いま気になる点を話して貰いました。

その後、OHPで映像を見ながら、未だ一部開館だという「国際子ども図書館」の全容を、それでも急ぎ足で話して貰いました。

開館までの経過などはプリントにして配り、建物の工夫、利用できる機能など、細かく紹介して貰いましたが、なにしろ時間の制約が有り質問の時間もあまり取れなくて、聞き損ねた事を惜しむ参加者もなかには居られたのではないかと思います。

それでも、26名の職員と、必要に応じて配置される臨時職員とで、国立の「国際子ども図書館」が、いま歩き始めたばかりだということは、強く皆の印象に残った部分かもしれません。

一般の図書館職員始めとして、子どもの本や文化に係わる大人たちの研修の場をも作っていききたいとの、館長とお話を“希望”とするなら、これからの市町村図書館の子ども向け運営にも、方針を示してくれるものになるかもしれないと、いまから育てていくこの図書館に、期待をかけて見守っていききたいと思いました。

二つの話題を結び付けて、「図書館の未来」を語るには時間が短すぎたのですが、ここでの話題を基に、「理想の図書館」めざす話し合いが様々な場所で広がってくれることを願って、一応の幕を閉じることにしました。（田原和子）

## 2000 絵本フォーラム in やまがた を振り返って

加藤美穂子

5月19日、山形市の遊学館で、「絵本で元気になろう！」をテーマに、荒井良二、小野明の両氏をお迎えし『絵本フォーラム in やまがた』が開催されました。好天に恵まれ、県外を含む19市町村より221人が参加下さいました。

### 〈第一部対談〉「絵本で元気になろう！」荒井良二氏、小野明氏

小野さんがインタビューし、荒井さんが語り、小野さんが解説しながら進行了ました。(以下要旨)各地でみんな絵本の情報をほしがっているが、うまく届いていない感じがする。こんな絵本もあるよということをお知らせしたくて話をさせてもらっている。34才で「ユックリとジョジョニ」でデビューするまで、絵本は子どもを把握していないと作れないと思っていた。今は、年齢に関係なく、切実な思いを絵本にして届けたいと考えている。作風からよく「どこが山形か？」と聞かれるが、別に山形を代表して絵本作ってるわけじゃないので、そんな狭い見方で絵本をつまらなくしないでほしい。発想は一作毎に0からすることになっている。元気な絵本を作っている人たちは、いろんなことに興味を持ち、人間的にも豊かな人が多い。自分も絵本だけの人にならず、イラスト、舞台美術など、絵本といっしょにやっていきたい。絵本で誰かを元気にしながら、人や社会とつながっていかれたらと考えている。



左から生田氏、加藤氏、荒井氏、小野氏

### 〈第二部ゲストとお話する会〉「絵本を持って集まろう」

荒井さんの部屋では、『わたしの好きな荒井さんのこの1冊』を30人から語っていただき、それぞれに荒井さんからコメントいただいた。(以下タイトル そのつもり、うそつきのき、みちくさ劇場、バスにのって、森の絵本、なぞなぞのたび、へびのしっぽ、スースーとネルネル、はじまりはじまり、モンテロッソのピンクの壁、さるのせんせいとへびのかんごふさん、ひゃくえんだま、ユックリとジョジョニ、チキチキチキいそいでいそいで) 荒井さんは絵本から受けた感覚をどこまで言葉にできるのかは非常に難しいことと話された。それでの皆の話を聞き、いろんな見方のあることに感心し、どれだけ絵本を楽しんでいるのか教えられ、隅々まで見られていることに感謝したいと述べられた。そして作者の言い分にはこだわらないで自由な感覚で絵本を楽しんでほしいと締めくくられた。

小野さんの部屋では、『わたしが元気のでるこの1冊』を30人から語っていただき、小野さんからコメントいただいた。(以下タイトル もりのなか、またもりへ、ルピナスさん、にぐるまびいて、バ



荒井良二氏

ムとケロのさむいあさ、ちょうちょむすび、むかでのいしやむかえ、あくび、ふたりはともだち、CoCoon、カボチャありがとう、あかあさん、はじめてのキャンプ、ちびゴリラのちびちび、あのときすきになったよ、やさしいおおかみ、14ひきのさむいふゆ、100万回生きたねこ、ともだちや、うそつきのつき、11ひきのねことあほうどり、パイパイベイビー、葉っぱのフレディ) 小野さんは、元気になる絵本とは、心をいい方に切り替えさせてくれる絵本とまとめられ、の皆元気で本の話の聞き、自分も元気になれたと感想を述べられた。



小野明氏

### 〈フォーラムを終えて〉

常々、たくさんの人たちが絵本について語り合う場がほしいと思っていたがテーマが決まるまで時間を要した。開催にあたり、今までの東京、大阪を参考にさせていただいた。一番の心配は会計面だったが、本の売り上げが順調で、黒字で終了できた。会場設定のむたつきや、写真関係の不備、タイムテーブルの不完全など、スタッフの中での反省点があげられた。全体として見ると、日々絵本からエネルギーをもらって読み聞かせ活動をしている人たちが、参加者の大半だったので、『絵本で元気になろう！』のテーマは山形に打ってつけでした。今後、各地でのフォーラム開催の参考になればと経過を報告します。

(1999.5.11) 山形絵本講演会で、80名からアンケートを取り、どんなテーマの講演会を希望するか調査。結果1位、読み聞かせの技術的なノウハウ、2位、ブックトークの方法  
(5.21) 企画委員長の香曾我部先生に山形でのテーマをお知らせし、開催可能か否か打診。

(6.1) 香曾我部先生より、読み聞かせに片寄らない、広い視野でのテーマ再考を、とのお返事をいただく。

(6.19) 絵本学会大会に参加、香曾我部先生にお会いし、『絵本で元気になるう!』のテーマ決定。

(7.18) 絵本フォーラム99東京大会に見学参加。企画委員の先生方と話し合い、山形ゆかりの荒井良二、小野明の両氏を講師に決定。

(11.1) 開催会場決定、協力スタッフ募集。

(2000.1.26) 学会に会計面の相談、本の販売決定。

(1.27) 20の出版社より本の取り寄せ開始。

(2.1~5.10) 県内14箇所で、フォーラムの宣伝をかねて、ブックトークと本の販売を展開。

(3.16) チラシ完成、学会よりチェック後、配付開始。

(3.23) マスコミ各社に講演会情報掲載依頼。

(4.17) 学会と会場設定の最終打ち合わせ、マイク、証明など。

(4.19) 受付、接待、販売、会場等スタッフの役割分担決定

(5.26) スタッフ反省会

(6.6) 学会へ事業報告と会計報告提出

学会からは、会場設定や司会、進行と多方面に渡り細かなご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

(やまがた絵本クラブ主催 加藤美穂子)

## 伝言板

### ●「きょうはこうめのひ」の発行

#### —梅花幼稚園絵本クラブ「こうめ文庫」活動報告書—

三宅興子 / 編著 浅野法子 小澤佐季子 斎藤幸代  
鈴木穂波 竹田津章子 竹田昌美 / 著  
= B5版 総ページ 258頁 =

梅花幼稚園(大阪府豊中市)の子どもたちと週1度、絵本を読み、貸出を行なっている「こうめ文庫」の5年間の活動をまとめました。興味のある方は、お申し込み下さい。ご希望の方は、代金を郵便振込みしていただき、お手数ですが、下記の必要事項を明記してお送り下さい。こちらから、本を郵送させていただきます。

- 第1章 こうめ文庫の概要と梅花幼稚園
- 第2章 こうめ文庫の歩み
- 第3章 1994年度入園生の3年間を通して
- 第4章 こうめ文庫にみる年少児・年中児・年長児の特徴
- 第5章 こうめ文庫の絵本貸出状況について  
—年度ごとの変遷と男女差を中心に—
- 第6章 子どもの絵本選びにみるダイナミックス
- 第7章 絵本とのかかわり、5人の子どもの場合
- 第8章 絵本に対する子どもの反応
- 第9章 科学絵本の読まれ方
- 第10章 よく読まれた絵本作家とその作品
- 第11章 借り出されなかった絵本とよく借り出された絵本  
(付録として貸出回数データあり)

・送付先 〒567-8578 大阪府茨木市宿久庄2-19-5

梅花女子大学児童文学科 三宅興子研究室内

・郵便振込番号 00990-4-5233 三宅興子

・申込時必要事項

<1> 申込冊数 1,210円(送料込) × [ ] 冊 = [ ] 円

<2> 振込み 2000年 [ ] 月 [ ] 日に振り込みました。

<3> 住所 <4> 名前

### ●平和と寛容の国際絵本展「ハロー・ディア・エネミー！」

ドイツのミュンヘン国際児童図書館の企画によるこの絵本展は、1999年5月より日本全国を巡回しています。世界19カ国41タイトルの原作に各国語の翻訳本を加え、約100冊あまりの小規模な絵本展ですが、日本人がとらわれがちな「戦争の悲惨さを子どもたちに伝えなければ……」といった視点とは一味違ったものを見る側に提起してくれます。一冊一冊手にとって見ることでこの絵本展がお住まいの近くで開催されましたなら、ぜひご覧下さい。(いずれも入場無料)

- ・ 2000.8.19~26 広島市平和記念資料館  
広島市中区中島1-2 TEL 082-241-5246
- ・ 2000.8.29~9.11 京都市国際交流会館  
京都市左京区粟田口鳥居町2-1  
TEL 075-752-3010
- ・ 2000.9.15~28 町田市立図書館  
東京都町田市原町田3-2-9
- ・ 2000.10.1~14 豊中市立岡町図書館

豊中市岡町 3-4-2 TEL 06-6843-4553

・ 2000.10.18～24 鳥取大丸デパート

鳥取市八頭郡八東町才代 299

TEL 0858-84-3415

・ 2000.10.26～11.4 聖和大学

西宮市岡田山 7-54 TEL 0798-52-0724

・ 2000.11.10～12 津田塾大学

東京都小平市津田町 2-1-1 TEL 042-342-5111

・ 2000.11.14～26 香川県立図書館

香川県高松市林町 2217-19 TEL 087-868-0567

・ 主催 日本国際児童図書評議会 (JBBY)・日本ユニセフ協会

・ 問い合わせ先 日本国際児童図書評議会内

「ハロー・ディア・エネミー！」実行委員会

〒162-0828 東京都新宿区袋町 25-30-203

TEL 03-5228-0051 FAX 03-5228-0053

●「山口の子ども読書年」手づくり絵本コンクール  
(文部省委嘱事業) 募集

応募要項

・ 主催 「山口の子ども読書年」推進実行委員会

・ 後援

「子ども読書年」推進会議・山口県・山口県教育委員会・山口県図書館協会・山口県母親クラブ連絡協議会・山口市教育委員会・やまぐち子どもセンター・山口市文化振興財団・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞西部本社・中国新聞社・KRY山口放送・TYSテレビ山口・YAB山口朝日放送・山口ケーブルビジョン・サンデー山口・アートふる山口実行委員会

・ 募集内容 未発表の手づくり絵本

・ テーマ

- (1) ほたる (自然に恵まれた山口県にちなんで)
- (2) クリスマス (日本で初めてクリスマスを祝ったといわれる山口市にちなんで)

・ 募集部門

- (1) 幼児の部 (2) 小学生の部 (3) 中・高生の部
- (4) 一般の部 (5) 合作の部 (親・祖父母・友達…等)

・ 応募規定

形・素材・画材・技法・サイズ・ページ数・製本方法自由(ファイルなどの利用も可)。ただし、表紙をつけ本の体裁をそなえ、閲覧展示でき、多数の人々の鑑賞に耐える製本であること。CGの場合は、奥付(最終ページ)に機種名・ソフト名を記載すること。複数の作品を出品する場合は、作品の一覧表を添付。

・ 応募資格 不問

・ 募集期間 2000年9月1日(金)～9月20日(水)  
当日必着

・ 応募方法

所定の応募票2枚に必要事項を記入し、1枚は作品の表紙裏(原則として見返し部分)に貼付し、もう1枚は同封し、事務局宛に送付または直接持参にて搬入すること(直接持参する場合、事前に電話連絡する)応募票は、返信用封筒・切手同封の上、事務局宛に請求するか、別紙に〔1〕タイトル〔2〕応募テーマ〔3〕応募部門〔4〕氏名(フリガナ)〔5〕〒住所〔6〕電話番号〔7〕年齢(学年)・性別〔8〕返却希望の有無(返却希望の場合、取りに

来るか、着払い返送かを選んで記載)を記載し貼付・同封すること。

・ 審査方法

作品展示期間の来場者による投票、および審査員の審査による

・ 応募作品の展示・入館者の投票期間

9月30日(土)～10月1日(日)

アートふる山口(山口市にて)

・ 結果通知 入賞者には11月上旬に個人宛に通知

・ 入賞作品の展示

2000年11月～山口県内各地を巡回展示予定

その他、賞、審査員、応募作品の取扱などについてはお問合せください

●応募・問い合わせ先●

〒753-0811

山口県吉敷 2518-4 伊藤和子方

「山口の子ども読書年」推進実行委員会事務局

手づくり絵本コンクール係

TEL & FAX : 083-920-1016 Eメール : a-a@ann.to

HomePage : <http://hiroshima.cool.ne.jp/hiroshima/60111/index.html>

●絵本研究誌の編集協力者募集

絵本研究誌「絵本未来」の発行を企画しています。絵本の歴史を探り、絵本の現在を見つめ、絵本の未来を切り拓いていくことを目指した雑誌です。

只今、創刊準備号の立ち上げから参加・協力していただける方を募集中。周辺ジャンルも視野に入れた幅広い視点から絵本について考えるためのホームグラウンドをつくりませんか。

興味を持たれた方は、下記までご連絡ください(できればEメールで)。

●連絡先●

松本泰治

〒350-1101 川越市的場 2114-30

E-mail: [jiita@aqua.plala.or.jp](mailto:jiita@aqua.plala.or.jp)

●安曇野ちひろ美術館

《未来を生きる子どもたちへ》—ちひろの夏—  
2000.7.7～9.26

眩しい日差しの中で、輝く夏の子どもたちを描いた作品とともに、ちひろが平和を願い描いた絵本『戦火のなかの子どもたち』『わたしがちいさかったときに』の原画を展示します。20世紀最後の夏、ちひろが描いた子どもたちが静かに語りかけるもの、それはちひろが絵筆に託した、21世紀に生きる子どもたちへのメッセージのように思えます。

《ちひろ美術館コレクション絵本出版記念展》

—この夏、ちひろ美術館のコレクションから  
新しい絵本が誕生します—

2000.7.7～9.26

小学館から刊行される「ちひろ美術館コレクション絵本」シリーズ(第1期6月15日発売)は、当館所蔵のちひろをはじめとする世界の絵本画家のコレクション作品をもとに制作された、新しい絵本シリーズです。今回、この「ちひろ美術館コレクション絵本」の出版を記念し、絵本の原画作品25点を展示します。楽しさあふれる絵本の世界を、原画とともに楽しみください。

\*同時開催《世界の絵本画家》

2000.7.7～9.26

ブライアン・ワイルドスミス、エロール・ル・カイン(イギリス)、タチヤーナ・マヴリナ、E.M.ラチョフ(ロシア)などおなじみの絵本画家の他、マーロン・ケリナド(パプア・ニューギニア)、シビル・ウェッタシンハ(スリランカ)等アジア・オセアニアからの作品も含め約55点を展示します。

\*おはなしの会・ギャラリートークなど

毎月第2第4土曜日

・おはなしの会 11:00～

絵本の読み聞かせや素話を親子でお楽しみいただけます。

・ギャラリートーク 14:00～

担当スタッフが作品の解説や展示の見どころなどをお話します。

・絵本の部屋のテーマブックは、以下の通りです。

8月「平和を考える絵本」、9月「おいしい絵本」

【開館】9:00～17:00(8月は18:00まで)

【休館日】水曜日(祝日は開館、翌日休館)

9月28日は展示替のための臨時休館

【入館料】大人800円・中高生500円・小学生300円

(20名以上の団体、障害者手帳をお持ちの方とその介添えの方、65歳以上は100円引き)

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原

TEL:0261-62-0772 FAX:0261-62-0774

HomePage: <http://www.chihiro.or.jp/>

●大島町絵本館

\*ギャラリー

《高島純絵本原画展》2000.9.1～9.28

\*カフェギャラリー

《橋爪忠昭洋画展》2000.9.1～9.15

《大島町芸術文化協会展》2000.9.16～9.28

《ヴァイオリンコンサート》出演:山本薫他 2000.9.3

【開館】10:00～18:00

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日

【入館料】大人500円・中高生300円・小学生100円

\*20名以上の団体2割引

〒939-0283 富山県射水群大島町鳥取50

TEL:0766-52-6780 FAX:0766-52-6777

●軽井沢絵本の森美術館

2000年夏の企画展 開館10周年記念展

《10年の軌跡展》～絵本作家からのメッセージ～

2000.6.15～10.9

開館10周年を記念する今展では10年間のコレクションを公開しつつ、絵本と共に歩んでまいりました小館の活動を振り返ります。これまでに取り扱ったテーマをご紹介します、併せて原画を展示します。また世界中から届けられた絵本作家のメッセージと、彼らの作品をご覧ください。絵に託された思い、作品制作の上でのモチーとと共に、新しい角度から作品を理解していただけることでしょう。



ヨーゼフ・ヴィルコン画「びよんびよんうさぎびよん」 1985 Nord-Sud Verlag AG/  
North-South Books, 8625 Gossau Zurich Switzerland

\*併設展《中東欧・ロシアの絵本を求めて》

【開館】6・10月9:30～17:00(最終入館16:50)

7・8・9月9:30～17:30(最終入館17:20)

【休館日】火曜日(7～9月は無休)

【入館料】大人800円・中高生500円・小学生400円

エルツ共通 大人1000円・中高生700円・小学生500円

〒389-0111 長野県軽井沢町塩沢182-1

TEL:0267-48-3340 FAX:0267-48-2006

HomePage : <http://shinshu.online.co.jp/museum/ehonnomori/>

### ●エルツおもちゃ博物館(軽井沢)

《ノアの方舟》～世界の扉を開いたおもちゃ～  
2000.6.15～10.9

\*併設展《エルツ地方のおもちゃたち》

【開館】6・10月9:30～17:00(最終入館16:50)  
7・8・9月9:30～17:30(最終入館17:20)

【休館日】火曜日(7～9月は無休)

【入館料】大人400円・中高生300円・小学生200円  
絵本の森共通 大人1000円・中高生700円・小学生500円

〒389-0111 長野県軽井沢町塩尻193-3

TEL : 0267-2009 FAX : 0267-48-2077

HomePage : 絵本の森美術館と同じ

### ●絵本の樹 美術館

《“ももたろう”になってみようよ》

お話の世界へようこそ! 皆で楽しむ参加型プログラム—  
2000.6.17～9.10

ももたろうは日本で生まれた懐かしい昔話です。地方によって伝えられるお話は少しずつ違うのも面白く、中には五大昔話の登場人物が加わってくるものもできたり、また明治、大正、昭和の年代には戦時に巻きこまれたももたろうもいました。そして今なお大人は子供に語り継ぎ、脈々と親しまれています。今回もハンズ・オン※の試み、お話シリーズ第2回目として、子どもも大人も“ももたろう”のお話の世界に参加し、一人一人の“ももたろう”を楽しんでみて下さい。

・創案・創作—

野口光世(布絵本、布おもちゃ作家、ぐるーぷもこもこ代表)

※ハンズ・オン—参加者が直接触れ、楽しみながら学ぶ参加体験型の展示方法。

\*同時開催

《石井聖岳絵本原画展》

「つれたつれた」全点

【開館】10:00～17:00

【休館日】水・木曜日 祭日・8月無休

【入館料】大人700円・2才～中学生300円

〒409-1501 山梨県北巨摩郡大泉西井出字石堂8240-4579

TEL : 0551-38-0918

### ●竹久夢二美術館

《夢二がえがく少年・少女展》～ノスタルジアとロマンを求めて～  
2000.7.1～9.26

大正期は子供を対象にして、芸術的に優れた絵画が多く制作されました。その中で竹下夢二も童画をはじめ、童謡の創作にも力を注ぎ、この時代の児童文化に大きな足跡を残しました。

本展では夢二の童画における少年・少女像に着目し、その魅力を追及していきたいと思えます。夢二が繰り広げる子供の世界—少年・少女



「カーブだよ」制作時期不祥(印刷)

画を中心に童話や童謡、さらに子供向けのデザインなど250点を出品します。ノスタルジアとロマン溢れる作品をお楽しみ下さい。

【開館】10:00～17:00(入館は16:30まで)

【休館日】月曜日

【入館料】一般700円・大高生600円・中小生400円

(弥生美術館共通)※立原道造記念館との三館共通券(1000円)有  
〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2  
TEL : 03-5689-0462 FAX : 03-3812-0699

### ●弥生美術館

『月の沙漠』をつくった詩人・抒情画家

《加藤まさを展》

～薔薇と音楽をこよなく愛したモダニスト～

2000.7.1～9.26

加藤まさをは、大正末から昭和初期にかけて、詩情あふれるロマンティックな少女画で人気を博した挿絵画家です。まさをの作品は、憂いをおびた独特のポーズとやわらかな線描、ゆたかな色彩で、当時の少女たちの内面世界をみずみずしく描きだした点で評価されています。本展覧会では、あまり知られていないまさをの初期作品の仕事に着目したいと思います。私たちは若き日のまさをを知ること、彼の少女画を新鮮な目でとらえ、その魅力を一層感じ取ることができるでしょう。

【開館】10:00～17:00(入館は16:30まで)

【休館日】月曜日

【入館料】一般700円・大高生600円・中小生400円

(竹久夢二美術館共通)

※立原道造記念館との三館共通券(1000円)有

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-3

TEL : 03-3812-0012 FAX : 03-3812-0699

### ●竹久夢二伊香保記念館

—印刷芸術—《絵はがきとその原画》

2000.6.20～11.20

夢二芸術を語る上で、絵はがきは見逃すことのできないジャンルのひとつです。夢二の画業は絵はがきから出発しているといっても過



言ではありません。絵はがきは芸術家としての夢二の卓越した技量を端的に表しています。誰もが手軽に楽しむ絵はがきというひとつのぞき窓から、夢二の新たな魅力を発見していただきたいと思えます。

\*同時開催 本館企画展「著書・装幀本名品展」  
2000.8.1～10.20

【開館】8:00～18:00

【休館日】年中無休

【入館料】本館新館共通券 大人 1,500円(1,300円)  
子ども 1,200円(1,000円)

\* ( ) 内は20名様以上の団体料金

〒377-0102 群馬県北群馬郡伊香保町544-119

TEL : 0279-72-4788 FAX : 0279-72-2661(夜間5120)

HomePage : <http://www.yumeji.or.jp>

### ●斑尾高原絵本美術館

開館5周年記念特別記念展

〈イブ・タルレ絵本原画展〉

2000.6.29～9.11

唱歌「ふるさと」の舞台ともなった斑尾山は、四季を通じていたるところに野うさぎが顔を見せる自然の豊かな高原です。そんな斑尾にびったりの愛らしいウサギの家族を描くフランスの女性絵本画家イブ・タルレの原画展を5周年記念の特別記念展として開催いたします。翻訳本も数多く出版され、中でも『ウサギのデイビー』シリーズは人気の高いシリーズです。約50点ほどの作品を一同に展示する規模の原画展は日本でも初めて。妻であり母でもあるイブ・タルレの描く柔らかな世界をお楽しみ下さい。

### 秋の特別記念展

〈マックス・ベルジュイス絵本原画展〉

2000.9.14～11月末(予定)

とぼけたカエルが主人公の代表作品より原画を約45点ほど展示いたします。一見グロテスクな風貌のカエルですが、欧米では比較的良好なモチーフとして登場する愛すべき存在。さてさてマックス・ベルジュイスがどんなカエル像をみせてくれるのか。ぜひ、お楽しみに！

【開館】9:30～18:00(休日前日は19:00まで)

【休館日】火曜日(8月無休)

【入館料】700円(飲物付)・幼児無料

〒389-2257 長野県飯山市斑尾高原11492-224

TEL & FAX : 0269-64-2807

### ●折りの丘 絵本美術館

〈現代日本の絵本画家展〉

第4期 ましませつこ 小野かおる

2000.7.1～10.1

絵本は、お話と絵を車の両輪にして成り立つ芸術です。すぐれた絵本の練り上げられたお話は、文学と呼ぶに値しますし、絵は、一枚の絵画として美術の領域にあります。『折りの丘絵本美術館』では、

絵本の芸術性のうち、絵画に照明を当て、美術の小道を通過して、絵本の世界へ皆さんをご案内します。

【開館】9:30～17:30(入館は17:00まで)

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日休館)

【入園料】一般・大学500円・小中高生300円(団体割引あり)

〒850-0931 長崎市南山手町2-10

TEL : 095-828-0716

### ●姫路市立美術館

夢の世界のおくりもの《アンデルセン童話 絵本原画展》

2000.8.12～9.17

デンマークが生んだ世界的な詩人・童話作家であるハンス・クリスチャン・アンデルセンは西暦2005年4月2日に生誕200年を迎えます。この展覧会は児童文学者・松居直氏の監修により、これまで出版されたアンデルセンの童話や絵本を中心に、15人の画家による、約240点の選りすぐりの原画を一堂に集めたものです。



リズベート・ツヴェルガー絵「マッチ売りの少女」より

\*同時開催

《姫路城名刀展—赤羽刀初公開》2000.9.2～10.15

【開館】8月10:00～18:00 9月10:00～17:00

(入館は閉館時間の30分前まで)

【休館日】月曜日

【入園料】一般800円(600円)・大高生500円(400円)  
中小生200円(100円)

\* ( ) 内は前売り・20名以上の団体料金。

〒670-0012 兵庫県姫路市本町68-25

TEL : 0792-22-2288

HomePage : <http://www.city.himeji.hyogo.jp/art>

### ●八ヶ岳小さな絵本美術館

〈田島征三・田島燃 二人展〉

2000.7.20～9.18

田島征三絵本原画「ちからたろう」「しずかのけっこん」「とべバツタ」「いろいろあってもあるきつづける」「ひとのいいねこ」・田島燃のいす数十点。絵本作家田島征三と家具作家田島燃親子のそれぞれの個性あふれる世界をお楽しみ下さい。



田島征三

【開館】10:00～17:00(16:30まで受付)

【休館日】火曜日(祝日の場合翌日)

【入館料】大人700円・中学生400円・小学生300円

〒391-0115 長野県諏訪郡原村原山

TEL: 0266-75-3450 FAX: 0266-75-3460

#### ●四季の森絵本美術館

《冒険・探険えほん原画展》

開催中～2000.9.11

お馴染み平和を願う犬のメッセンジャー「ジェイク」とバリアフリーを推奨しながら、勇気と情熱を与えてくれる「猫3人?組 オラ、サヴァ、チェリオ」が登場する絵本の原画約70点を展示した企画展です。

【開館】10:00～17:00

【休館日】火曜日(祝日の場合翌日)

【入館料】一般500円・小学生300円

〒378-0000 沼田市玉原高原口

TEL: 0278-23-9080 FAX: 0278-23-9591

#### ●日本絵本原画展 イン イングランド支援のための

正置友子&三宅興子 ジョイント公演会

《イギリスのウクトリア朝時代の絵本》と

「しかけ絵本」について

【日時】2000.9.23(土・祝) 12:00～16:00

【場所】吹田市文化会館メイシアター中ホール

(阪急電車千里線「吹田駅」下車 北千里寄りの改札口を出て1分)

【講師】正置友子氏(絵本研究家)

三宅興子氏(絵本学会会長・梅花女子大学教授)

【参加費】2,500円(当日は2,800円)

【申込み】郵便局にて下記の口座へ参加費を振込んで下さい。当日、振込み領収書とチケットを交換します。

●口座番号●00990-5-317580

●口座名称●絵本の散歩道の会

【主催】吹田子ども本連絡会・絵本の散歩道の会・青山台文庫

【問合せ】野々上律子 TEL: 06-6387-2683

飯田 妙子 TEL: 06-6834-6465

## 事務局からのお知らせ

### ●絵本学会研究紀要「絵本学」第3号論文公募再度のお知らせ

絵本学会研究紀要「絵本学」第3号の論文を公募しております。下記の要領でふるってご投稿ください。

#### 研究論文集投稿要領

1. 投稿者の資格：絵本学会会員および準会員
2. 掲載の対象：絵本に関する研究論文、調査研究、研究ノートで、未発表のもの。
3. 掲載者の決定：受理した論文は、査読の上編集委員会が掲載の採否を決定する。ただし不採用の理由は記さない。
4. 刊行までの日程：(1)原稿提出受付期間は、2000年9月30日まで(必着)とする。(2)掲載の採否は、編集委員会の議を経て12月15日までに決定し通知する。(3)刊行は、2000年度内とする。

#### 執筆要領

1. 日本語による横書きとする。
  2. 原稿枚数は、1論文あたり400字詰め原稿用紙で20枚から40枚までとする。
  3. 原則としてワープロ原稿とし、表紙に原稿の種類(研究論文、調査研究、研究ノート)、論文タイトル(和文、英文)、執筆者名(ローマ字を併記)、所属機関、専門分野を明記する。
  4. 執筆にあたっては、「執筆要領」に基づいて作成する。「執筆要領」は、事務局に請求すること。
  5. ワープロ原稿には、フロッピーディスクを必ず添付すること。データは、ウインドウズまたはマッキントッシュデータ。
  6. 図版はモノクロを原則とする。カラー図版を希望する場合は、自己負担とする。
  7. 論文掲載者には、掲載誌5部と抜き刷り30部を無料で呈する。
- 原稿提出先  
原稿は絵本学会事務局宛に郵送すること(FAXによる送付は不可)。

### ●第4回絵本学会大会(2001年度)開催のご案内

第4回絵本学会大会は、2001年5月4日(金)・5日(土)の2日間フェリス女学院大学(神奈川県横浜市)で開催することが決まりました。大会プログラムなど詳細は、次号のニュースでお知らせいたします。

### ●理事会・運営委員会

5月13日 運営委員会 於：日本女子大学会議室  
議題

- ・第3回絵本学会大会について
- 大会のプログラムと内容の最終的な確認、当日の担当などが決められた。
- ・2000年度総会の議題について
- ・1999年度決算報告
- 事務局より1999年度決算の報告があった。
- ・2000年度予算の策定
- ・その他

6月10日 運営委員会 於：伊万里市民図書館

議題

- ・第3回絵本学会大会の進行について
- ・その他

7月15日 運営委員会 於：日本女子大学会議室

- ・新運営委員会委員の顔合わせ
- ・新体制での今後の活動について
- ・新運営委員追加推薦について

生田美秋氏が運営委員として推薦され承認された。

- ・第3回絵本学会大会についての報告

第3回絵本学会大会について参加者、収支などの報告。

研究発表の方法、進行などが検討され次回のために問題点を明らかにしていくことになった。

- ・研究紀要の進捗状況と紀要委員会の体制について
- ・機関誌編集の進捗状況について
- ・第4回絵本学会大会会場について

藤本朝日委員より、フェリス女学院大学での開催が大学より了承されたことが報告された。

日程は、2001年5月4日・5日に決定。

- ・今後の理事会・運営委員会の日程について
- ・ゲートシティ大崎での「絵本フォーラム」について
- ・その他